

(様式第10)

令和7年10月3日

厚生労働大臣

殿

国立大学法人信州大学長 中村 宗一郎

信州大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法(昭和23年法律第205号)第12条の3第1項及び医療法施行規則(昭和23年厚生省令第50号)第9条の2の2の第1項の規定に基づき、令和6年度の業務に関して報告します。

1 開設者の住所及び氏名

住所	〒390-8621 長野県松本市旭3丁目1番1号
氏名	国立大学法人 信州大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名称

信州大学医学部附属病院
-------------

3 所在の場所

〒390-8621 長野県松本市旭3丁目1番1号
電話 (0263) 35-4600

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

<input type="radio"/>	1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
<input type="radio"/>	2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し○を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科							
内科と組み合わせた診療科名等							
<input type="radio"/>	1呼吸器内科	<input type="radio"/>	2消化器内科	<input type="radio"/>	3循環器内科	<input type="radio"/>	4腎臓内科
	5神経内科	<input type="radio"/>	6血液内科		7内分泌内科		8代謝内科
<input type="radio"/>	9感染症内科	<input type="radio"/>	10アレルギー疾患内科またはアレルギー科		<input type="radio"/>		11リウマチ科
診療実績							
脳神経内科、糖尿病・内分泌内科、腫瘍内科、緩和ケア内科							

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。  
2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科							
外科と組み合わせた診療科名							
○	1呼吸器外科	○	2消化器外科	○	3乳腺外科		4心臓外科
	5血管外科	○	6心臓血管外科	○	7内分泌外科	○	8小児外科
診療実績							

(注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。  
 2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること(「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと)。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

○	1精神科	○	2小児科	○	3整形外科	○	4脳神経外科
○	5皮膚科	○	6泌尿器科	○	7産婦人科		8産科
	9婦人科	○	10眼科	○	11耳鼻咽喉科	○	12放射線科
	13放射線診断科		14放射線治療科	○	15麻酔科	○	16救急科

(注) 標榜している診療科名に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科							
歯科と組み合わせた診療科名							
	1小児歯科		2矯正歯科	○	3歯科口腔外科		
歯科の診療体制							

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。  
 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1	移植外科	2	形成外科	3	リハビリテーション科	4	病理診断科	5	児童精神科
6		7		8		9		10	
11		12		13		14		15	
16		17		18		19		20	
21		22		23		24		25	

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
34				664	698

(単位: 床)

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数	
医師	245	222	467	看護補助者	32	診療エックス線技師	0	
歯科医師	5	16.8	21.8	理学療法士	17	臨床検査 臨床検査技師	67	
薬剤師	40	10.6	50.6	作業療法士	12		衛生検査技師	0
保健師	0	0	0	視能訓練士	9		その他	0
助産師	72	2.8	74.8	義肢装具士	0	あん摩マッサージ指圧師	0	
看護師	733	8.1	741.1	臨床工学士	21	医療社会事業従事者	6	
准看護師	1	0	1	栄養士	0	その他の技術員	31	
歯科衛生士	5	3	8	歯科技工士	2	事務職員	180	
管理栄養士	7	10.6	17.6	診療放射線技師	46	その他の職員	43	

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。  
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めなくて記入すること。  
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人数(人)	専門医名	人数(人)
総合内科専門医	94	眼科専門医	16
外科専門医	45	耳鼻咽喉科専門医	18
精神科専門医	12	放射線科専門医	21
小児科専門医	37	脳神経外科専門医	12
皮膚科専門医	11	整形外科専門医	37
泌尿器科専門医	9	麻酔科専門医	22
産婦人科専門医	18	救急科専門医	12
		合計	364

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。  
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 ( 花岡 正幸 ) 任命年月日 令和 29 年 4 月 1 日

平成29年4月1日～令和2年3月31日:医療安全管理室長

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	464.2 人	12.5 人	476.7 人
1日当たり平均外来患者数	1,365.3 人	80.5 人	1,445.8 人
1日当たり平均調剤数		866.1	剤
必要医師数		127	人

必要歯科医師数	2	人
必要薬剤師数	16	人
必要(准)看護師数	287	人

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。  
2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。  
3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。  
4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。  
5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二条の二の算定式に基づき算出すること。

#### 10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
集中治療室	645 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	病床数	14 床	心電計	有
			人工呼吸装置	有	心細動除去装置	有
			その他の救急蘇生装置	有	ペースメーカー	有
無菌病室等	[固定式の場合]	床面積	216	m <sup>2</sup>	病床数	21 床
	[移動式の場合]	台数	0	台		
医薬品情報管理室	[専用室の場合]	床面積	50 m <sup>2</sup>			
	[共用室の場合]	共用する室名				
化学検査室	496 m <sup>2</sup>		(主な設備)	全自動マイクロプレートEIA分析装置		
細菌検査室	134 m <sup>2</sup>		(主な設備)	Anoxomat Mark II (細菌診断装置)		
病理検査室	224 m <sup>2</sup>		(主な設備)	凍結組織切片作製装置		
病理解剖室	204 m <sup>2</sup>		(主な設備)	写真撮影器具		
研究室	229 m <sup>2</sup>		(主な設備)			
講義室	1,109 m <sup>2</sup>		室数	12 室	収容定員	476 人
図書室	109 m <sup>2</sup>		室数	1 室	蔵書数	9,500 冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。  
2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

#### 11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	91.7	%	逆紹介率	71.5	%
算出根拠	A: 紹介患者の数		13,748		人
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		11,834		人
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数		1,431		人
	D: 初診の患者の数		16,560		人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。  
2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。  
3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由(注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害 関係	委員の要件 該当状況
相澤 克之	社会医療法人財団慈泉会 相澤病院	○	医療に係る安全管理に 関する識見を有する者	無	1
宗村 和広	信州大学経法学部教授		法律に関する識見を 有する者	無	1
両角 直子	公益社団法人 長野県看護協会		医療に係る安全管理に 関する識見を有する者	無	1
林 幸代	信州SP研究会		医療を受ける者	無	2
藤澤 晃	信州大学 理事		その他学長が 必要と認めたもの	無	3

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(1.に掲げる者を除く。)
3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有
委員の選定理由の公表の有無	有
公表の方法	
病院ホームページにて掲載している。	

(様式第2)

### 高度の医療の提供の実績

#### 1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数 (人)
タイムラプス撮像法による受精卵・胚培養	138人
子宮内細菌叢検査1(EMMA/ALICE)	5人
子宮内膜受容能検査1(ERA)	3人
子宮内細菌叢検査2(子宮内フローラ検査)	89人
子宮内膜受容能検査2(ERPeak)	11人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
先進医療の種類合計数	
取扱い患者数の合計(人)	246人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示  
第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。



(様式第2)

### 高度の医療の提供の実績

#### 3 その他の高度の医療

医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類合計数	
取扱い患者数の合計(人)	0

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	3	72	下垂体性ADH分泌異常症	10
2	筋萎縮性側索硬化症	18	74	下垂体性PRL分泌亢進症	3
3	脊髄性筋萎縮症	7	75	クッシング病	5
5	進行性核上性麻痺	7	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	39
6	パーキンソン病	111	78	下垂体前葉機能低下症	64
7	大脳皮質基底核変性症	3	79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	3
8	ハンチントン病	1	81	先天性副腎皮質酵素欠損症	2
10	シャルコー・マリエー病	4	84	サルコイドーシス	59
11	重症筋無力症	80	85	特発性間質性肺炎	79
13	多発性硬化症/視神経脊髄炎	65	86	肺動脈性肺高血圧症	32
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎/多巣性運	26	88	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	35
15	封入体筋炎	3	89	リンパ管筋腫症	9
16	クロー・深瀬症候群	6	90	網膜色素変性症	18
17	多系統萎縮症	7	91	バッド・キアリ症候群	3
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	59	92	特発性門脈圧亢進症	2
19	ライソゾーム病	25	93	原発性胆汁性胆管炎	55
21	ミトコンドリア病	8	94	原発性硬化性胆管炎	6
22	もやもや病	14	95	自己免疫性肝炎	16
28	全身性アミロイドーシス	227	96	クローン病	124
30	遠位型ミオパチー	3	97	潰瘍性大腸炎	179
34	神経線維腫症	36	98	好酸球性消化管疾患	5
35	天疱瘡	11	104	コステロ症候群	1
37	膿疱性乾癬(汎発型)	7	105	チャージ症候群	3
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	2	106	クリオピリン関連周期熱症候群	1
40	高安静脈炎	14	107	全身型若年性特発性関節炎	4
41	巨細胞性動脈炎	3	109	非典型性溶血性尿毒症候群	1
42	結節性多発動脈炎	8	111	先天性ミオパチー	1
43	顕微鏡的多発血管炎	27	113	筋ジストロフィー	22
44	多発血管炎性肉芽腫症	17	115	遺伝性周期性四肢麻痺	1
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	17	116	アトピー性骨髄炎	1
46	悪性関節リウマチ	5	117	脊髓空洞症	3
47	パージャール病	4	118	脊髄髄膜瘤	2
49	全身性エリテマトーデス	246	120	遺伝性ジストニア	2
50	皮膚筋炎/多発性筋炎	121	121	神経フェリチン症	1
51	全身性強皮症	68	123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性	1
52	混合性結合組織病	39	124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優	1
53	シェーグレン症候群	34	129	痙攣重積型(二相性)急性脳症	1
54	成人ステル病	15	130	先天性無痛無汗症	2
55	再発性多発軟骨炎	1	131	アレキサンダー病	1
56	ペーチェット病	76	143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	1
57	特発性拡張型心筋症	88	144	レノックス・カスター症候群	1
58	肥大型心筋症	27	145	ウエスト症候群	1
59	拘束型心筋症	1	150	環状20番染色体症候群	1
60	再生不良性貧血	17	151	ラスムッセン脳炎	1
61	自己免疫性溶血性貧血	6	154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん	2
62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	4	158	結節性硬化症	13
63	特発性血小板減少性紫斑病	22	162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	6
64	血栓性血小板減少性紫斑病	3	163	特発性後天性全身性無汗症	4
65	原発性免疫不全症候群	13	166	弾性線維性仮性黄色腫	1
66	IgA腎症	32	167	マルファン症候群	49
67	多発性嚢胞腎	37	168	エーラス・ダンロス症候群	54
68	黄色靱帯骨化症	3	171	ウィルソン病	5
69	後縦靱帯骨化症	52	172	低ホスファターゼ症	1
70	広範脊柱管狭窄症	15	179	ウィリアムズ症候群	2
71	特発性大腿骨頭壊死症	49	181	クルーゾン症候群	1

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
188	多脾症候群	1	331	特発性多中心性キャッスルマン病	15
189	無脾症候群	5	334	脳クレアチン欠乏症候群	1
193	ブラグーウィリ症候群	2			
202	スミス・マギニス症候群	1			
203	22q11.2欠失症候群	4			
207	総動脈幹遺残症	2			
208	修正大血管転位症	1			
209	完全大血管転位症	7			
210	単心室症	5			
211	左心低形成症候群	4			
212	三尖弁閉鎖症	5			
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	6			
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	3			
215	ファロー四徴症	15			
216	両大血管右室起始症	13			
217	エプスタイン病	3			
218	アルポート症候群	3			
220	急速進行性糸球体腎炎	7			
221	抗糸球体基底膜腎炎	1			
222	一次性ネフローゼ症候群	23			
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	1			
224	紫斑病性腎炎	3			
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)	5			
227	オスラー病	9			
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	2			
236	偽性副甲状腺機能低下症	2			
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	1			
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	7			
249	グルタル酸血症1型	1			
257	肝型糖原病	1			
263	脳腫黄色腫症	1			
266	家族性地中海熱	13			
271	強直性脊椎炎	22			
274	骨形成不全症	1			
279	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病)	1			
280	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	1			
281	クリツベル・トレノネー・ウェーバー症候群	1			
283	後天性赤芽球癆	6			
284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	1			
286	遺伝性鉄芽球性貧血	1			
288	自己免疫性後天性凝固因子欠乏症	5			
289	クロンカイト・カナダ症候群	1			
296	胆道閉鎖症	8			
297	アラジール症候群	1			
298	遺伝性膀胱炎	1			
300	IgG4関連疾患	14			
304	若年発症型両側性感音難聴	1			
306	好酸球性副鼻腔炎	54			
309	進行性ミオクローヌスてんかん	1			
315	ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候)	1			
318	シトリン欠損症	11			
319	セピアプテリン還元酵素(SR)欠損症	1			
325	遺伝性自己炎症疾患	1			
329	無虹彩症	1			
330	先天性気管狭窄症	2			

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

疾患数	167
合計患者数(人)	3,047

(様式第2)

### 高度の医療の提供の実績

#### 5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・情報通信機器を用いた診療に係る基準	・ハイリスク妊娠管理加算
・医療DX推進体制整備加算	・ハイリスク分娩管理加算
・地域歯科診療支援病院歯科初診料	・呼吸ケアチーム加算
・歯科外来診療医療安全対策加算2	・術後疼痛管理チーム加算
・歯科外来診療感染対策加算4	・後発医薬品使用体制加算1
・特定機能病院入院基本料 一般病棟7対1入院基本料	・バイオ後続品使用体制加算
・特定機能病院入院基本料 精神病棟7対1入院基本料	・病棟薬剤業務実施加算1
・救急医療管理加算	・病棟薬剤業務実施加算2
・超急性期脳卒中加算	・データ提出加算
・診療録管理体制加算2	・入退院支援加算
・医師事務作業補助体制加算1	・せん妄ハイリスク患者ケア加算
・急性期看護補助体制加算	・精神疾患診療体制加算
・看護職員夜間配置加算	・排尿自立支援加算
・療養環境加算	・地域医療体制確保加算
・重症者等療養環境特別加算	・地域歯科診療支援病院入院加算

・無菌治療室管理加算1	・救命救急入院料2
・無菌治療室管理加算2	・救命救急入院料3
・緩和ケア診療加算	・特定集中治療室管理料1
・小児緩和ケア診療加算	・ハイケアユニット入院医療管理料1
・精神科身体合併症管理加算	・新生児特定集中治療室管理料1
・摂食障害入院医療管理加算	・新生児治療回復室入院医療管理料
・栄養サポートチーム加算	・小児入院医療管理料4
・医療安全対策加算1	・入院時食事療養／生活療養（I）
・感染対策向上加算1	
・患者サポート体制充実加算	
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ウイルス疾患指導料	・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
・外来栄養食事指導料の注3に規定する基準	・頭蓋内電極植込術(脳深部電極によるもの(7本以上の電極による場合)に限る。)
・心臓ペースメーカー指導管理料の注5に規定する遠隔モニタリング加算	・癒着性脊髄くも膜炎手術(脊髄くも膜剥離操作を行うもの)
・糖尿病合併症管理料	・仙骨神経刺激装置植込術及び仙骨神経刺激装置交換術(便失禁)
・がん性疼痛緩和指導管理料	・仙骨神経刺激装置植込術及び仙骨神経刺激装置交換術(過活動膀胱)
・がん患者指導管理料イ	・角結膜悪性腫瘍切除術
・がん患者指導管理料ロ	・治療的角膜切除術(エキシマレーザーによるもの(角膜ジストロフィー又は帯状角膜変性に係るものに限る。))
・がん患者指導管理料ハ	・緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))
・がん患者指導管理料ニ	・緑内障手術(緑内障手術(流出路再建術(眼内法)及び水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術)
・外来緩和ケア管理料	・緑内障手術(濾過胞再建術(needle法))
・移植後患者指導管理料(臓器移植後)	・毛様体光凝固術(眼内内視鏡を用いるものに限る。)
・移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後)	・網膜付着組織を含む硝子体切除術(眼内内視鏡を用いるもの)
・糖尿病透析予防指導管理料	・網膜再建術
・乳腺炎重症化予防ケア・指導料	・経外耳道的内視鏡下鼓室形成術
・婦人科特定疾患治療管理料	・人工中耳植込術

・腎代替療法指導管理料	・植込型骨導補聴器(直接振動型)植込術、人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術
・一般不妊治療管理料	・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)及び経鼻内視鏡下鼻副鼻腔悪性腫瘍手術(頭蓋底郭清、再建を伴うものに限る。)
・生殖補助医療管理料1	・鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。)
・下肢創傷処置管理料	・鏡視下喉頭悪性腫瘍手術
・院内トリアージ実施料	・上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)
・外来放射線照射診療料	・上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)
・外来腫瘍化学療法診療料1	・顎関節人工関節全置換術(歯科)
・連携充実加算	・頭頸部悪性腫瘍光線力学療法
・外来腫瘍化学療法診療料の注9に規定するがん薬物療法体制充実加算	・頭頸部悪性腫瘍光線力学療法(歯科)
・ニコチン依存症管理料	・乳癌センチネルリンパ節生検加算1及びセンチネルリンパ節生検(併用)
・療養・就労両立支援指導料の注3に規定する相談支援加算	・乳癌センチネルリンパ節生検加算2及びセンチネルリンパ節生検(単独)
・ハイリスク妊産婦共同管理料(Ⅰ)	・乳腺悪性腫瘍手術(乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わないもの)及び乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの))
・がん治療連携計画策定料	・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)
・外来排尿自立指導料	・胸腔鏡下拡大胸腺摘出術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・肝炎インターフェロン治療計画料	・胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・こころの連携指導料(Ⅱ)	・胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・プログラム医療機器等指導管理料	・胸腔鏡下肺切除術(区域切除及び肺葉切除術又は1肺葉を超えるもので内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・薬剤管理指導料	・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(区域切除で内視鏡手術用支援機器を用いる場合)

・地域連携診療計画加算	・肺悪性腫瘍手術(壁側・臓側胸膜全切除(横隔膜、心膜合併切除を伴うもの)に限る。)
・検査・画像情報提供加算及び電子的診療情報評価料	・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(肺葉切除又は1肺葉を超えるもので内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・医療機器安全管理料1	・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(気管支形成を伴う肺切除)
・医療機器安全管理料2	・内視鏡下筋層切開術
・医療機器安全管理料(歯科)	・食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)、内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、等
・精神科退院時共同指導料1及び2	・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)
・歯科治療時医療管理料	・胸腔鏡下弁形成術
・救急患者連携搬送料	・胸腔鏡下弁置換術
・在宅持続陽圧呼吸療法指導管理料の注2に規定する遠隔モニタリング加算	・経カテーテル弁置換術(経心尖大動脈弁置換術及び経皮的大動脈弁置換術)
・在宅植込型補助人工心臓(非拍動流型)指導管理料	・経皮的僧帽弁クリップ術
・在宅腫瘍治療電場療法指導管理料	・不整脈手術左心耳閉鎖術(胸腔鏡下によるもの)
・持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合)及び皮下連続式グルコース測定	・不整脈手術左心耳閉鎖術(経カテーテル的手術によるもの)
・持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動しない持続血糖測定器を用いる場合)	・磁気ナビゲーション加算
・遺伝学的検査の注1に規定する施設基準	・経皮的中隔心筋焼灼術
・染色体検査の注2に規定する基準	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
・骨髄微小残存病変量測定	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー)
・BRCA1/2遺伝子検査	・両心室ペースメーカー移植術(経静脈電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(経静脈電極の場合)
・がんゲノムプロファイリング検査	・植込型除細動器移植術(心筋リードを用いるもの)及び植込型除細動器交換術(心筋リードを用いるもの)

・先天性代謝異常症検査	・植込型除細動器移植術(経静脈リードを用いるもの又は皮下植込型リードを用いるもの)、植込型除細動器交換術(その他のもの)及び経静脈電極除去術
・抗HLA抗体(スクリーニング検査)及び抗HLA抗体(抗体特異性同定検査)	・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(心筋電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(心筋電極の場合)
・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(経静脈電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(経静脈電極の場合)
・ウイルス・細菌核酸多項目同時検出(SARS-CoV-2核酸検出を含まないもの)	・大動脈バルーンパンピング法(IABP法)
・ウイルス・細菌核酸多項目同時検出(髄液)	・経皮的循環補助法(ポンプカテーテルを用いたもの)
・検体検査管理加算(I)	・補助人工心臓
・検体検査管理加算(IV)	・植込型補助人工心臓(非拍動流型)
・国際標準検査管理加算	・経皮的下肢動脈形成術
・遺伝カウンセリング加算	・腹腔鏡下リンパ節群郭清術(傍大動脈)
・遺伝性腫瘍カウンセリング加算	・腹腔鏡下リンパ節群郭清術(側方)
・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	・内視鏡的逆流防止粘膜切除術
・時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト	・腹腔鏡下十二指腸局所切除術(内視鏡処置を併施するもの)
・胎児心エコー法	・腹腔鏡下胃切除術(単純切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下胃切除術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))
・ヘッドアップティルト試験	・腹腔鏡下噴門側胃切除術(単純切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下噴門側胃切除術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))
・人工臍臓検査、人工臍臓療法	・腹腔鏡下胃全摘術(単純全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下胃全摘術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))
・長期継続頭蓋内脳波検査	・腹腔鏡下胃縮小術

・長期脳波ビデオ同時記録検査1	・バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術
・神経学的検査	・腹腔鏡下胆嚢悪性腫瘍手術(胆嚢床切除を伴うもの)
・補聴器適合検査	・胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)
・全視野精密網膜電図	・体外衝撃波胆石破碎術
・ロービジョン検査判断料	・腹腔鏡下肝切除術
・コンタクトレンズ検査料1	・移植用部分肝採取術(生体)(腹腔鏡によるもの)
・小児食物アレルギー負荷検査	・生体部分肝移植術
・内服・点滴誘発試験	・同種死体肝移植術
・経頸静脈的肝生検	・体外衝撃波膵石破碎術
・前立腺針生検法(MRI撮影及び超音波検査融合画像によるもの)	・腹腔鏡下膵腫瘍摘出術
・CT透視下気管支鏡検査加算	・腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術
・経気管支凍結生検法	・腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・精密触覚機能検査	・腹腔鏡下膵中央切除術
・画像診断管理加算1	・腹腔鏡下膵頭部腫瘍切除術
・画像診断管理加算2	・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・画像診断管理加算4	・腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・ポジトロン断層撮影(アミロイドPETイメージング剤を用いた場合を除く。)	・腹腔鏡下直腸切除・切断術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・ポジトロン断層撮影(アミロイドPETイメージング剤を用いた場合に限る。)	・体外衝撃波腎・尿管結石破碎術
・ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影(アミロイドPETイメージング剤を用いた場合を除く。)	・腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)及び腹腔鏡下尿管悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)

・ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影(アミロイドPETイメージング剤を用いた場合に限る。)	・腎悪性腫瘍ラジオ波焼灼療法
・CT撮影及びMRI撮影	・腹腔鏡下腎盂形成手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・冠動脈CT撮影加算	・同種死体腎移植術
・外傷全身CT加算	・生体腎移植術
・心臓MRI撮影加算	・膀胱水圧拡張術及びハンナ型間質性膀胱炎手術(経尿道)
・小児鎮静下MRI撮影加算	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・頭部MRI撮影加算	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
・肝エラストグラフィ加算	・腹腔鏡下小切開膀胱悪性腫瘍手術
・抗悪性腫瘍剤処方管理加算	・尿道狭窄グラフト再建術
・外来化学療法加算1	・人工尿道括約筋植込・置換術
・無菌製剤処理料	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)	・女子外性器悪性腫瘍手術センチネルリンパ節生検加算
・脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)	・腹腔鏡下仙骨腔固定術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・運動器リハビリテーション料(Ⅰ)	・腹腔鏡下腔式子宮全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに対して内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・がん患者リハビリテーション料	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)
・リンパ浮腫複合的治療料	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮頸がんに限る。)
・歯科口腔リハビリテーション料2	・腹腔鏡下子宮瘢痕部修復術
・通院・在宅精神療法の注4に規定する児童思春期精神科専門管理加算	・体外式膜型人工肺管理料
・通院・在宅精神療法の注8に規定する療養生活継続支援加算	・医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術

・精神科作業療法	・医科点数表第2章第10部手術の通則の19に掲げる手術 (遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する乳房切除術に限る。)
・精神科ショート・ケア「小規模なもの」	・医科点数表第2章第10部手術の通則の19に掲げる手術 (遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する子宮附属器腫瘍摘出術)
・精神科デイ・ケア「小規模なもの」	・輸血管管理料Ⅰ
・抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)	・貯血式自己血輸血管管理体制加算
・医療保護入院等診療料	・コーディネート体制充実加算
・多血小板血漿処置	・自己生体組織接着剤作成術
・エタノールの局所注入(甲状腺)	・自己クリオプレシペート作製術(用手法)
・エタノールの局所注入(副甲状腺)	・同種クリオプレシペート作製術
・人工腎臓	・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
・導入期加算3及び腎代替療法実績加算	・胃瘻造設時嚥下機能評価加算
・透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算	・歯周組織再生誘導手術
・難治性高コレステロール血症に伴う重度尿蛋白を呈する糖尿病性腎症に対するLDLアフェレシス療法	・広範囲顎骨支持型装置埋入手術
・移植後抗体関連型拒絶反応治療における血漿交換療法	・麻酔管理料(Ⅰ)
・歩行運動処置(ロボットスーツによるもの)	・麻酔管理料(Ⅱ)
・歯科技工士連携加算1及び光学印象歯科技工士連携加算	・周術期薬剤管理加算
・CAD/CAM冠及びCAD/CAMインレー	・放射線治療専任加算
・歯科技工加算1及び2	・外来放射線治療加算
・皮膚悪性腫瘍センチネルリンパ節生検加算	・高エネルギー放射線治療
・皮膚移植術(死体)	・一回線量増加加算

・自家脂肪注入	・強度変調放射線治療 (IMRT)
・組織拡張器による再建手術 (乳房 (再建手術) の場合に限る。)	・画像誘導放射線治療 (IGRT)
・四肢・躯幹軟部悪性腫瘍手術及び骨悪性腫瘍手術の注に掲げる処理骨再建加算	・体外照射呼吸性移動対策加算
・骨悪性腫瘍、類骨骨腫及び四肢軟部腫瘍ラジオ波焼灼療法	・定位放射線治療
・骨移植術 (軟骨移植術を含む。)(同種骨移植 (非生体) (同種骨移植 (特殊なものに限る。)))	・定位放射線治療呼吸性移動対策加算
・後縦靭帯骨化症手術 (前方進入によるもの)	・保険医療機関間の連携による病理診断
・椎間板内酵素注入療法	・保険医療機関間の連携におけるデジタル病理画像による術中迅速病理組織標本作製
・緊急穿頭血腫除去術	・保険医療機関間の連携におけるデジタル病理画像による迅速細胞診
・内視鏡下脳腫瘍生検術及び内視鏡下脳腫瘍摘出術	・デジタル病理画像による病理診断
・頭蓋骨形成手術 (骨移動を伴うものに限る。)	・病理診断管理加算2
・脳刺激装置植込術及び脳刺激装置交換術	・悪性腫瘍病理組織標本加算
・看護職員処遇改善評価料69	・クラウン・ブリッジ維持管理料
・外来・在宅ベースアップ評価料 ( I )	・顎口腔機能診断料 (顎変形症 (顎離断等の手術を必要とするものに限る。)) の手術前後における歯科矯正に係るもの)
・歯科外来・在宅ベースアップ評価料 ( I )	・通院・在宅精神療法の注10に規定する児童思春期支援指導加算
・入院ベースアップ評価料83	・腹腔鏡下腭頭部腫瘍切除術 (内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・乳腺悪性腫瘍ラジオ波焼灼療法	

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.

(注)1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。

(注)2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

### 8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	1. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。	
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	264	
剖 検 の 状 況	剖検症例数(例)	10
	剖検率(%)	3

(注)1 「臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況」欄については、選択肢の1・2どちらかを選択する(○で囲む等)こと。

(注)2 「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

(様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
				補助元	委託元
血液凝固因子フィブリノゲンの凝固機能を応用した新規タンパク質精製技術の開発	海藤 貴大	臨床検査部	470,000	補委	日本学術振興会
ICUせん妄に対する仮想現実(VR)の効果	塚越 大智	リハビリテーション部	460,000	補委	日本学術振興会
痛みの分類の再考:侵害受容性疼痛は神経障害性疼痛に進展し得る	川真田 樹人	麻酔蘇生学	4,160,000	補委	日本学術振興会
喘息・COPD患者の包括的な治療応答性評価に基づくプレジジョンメディスンの構築	平井 啓太	薬剤部	1,170,000	補委	日本学術振興会
重症度の異なるゲノム編集マウスを用いた筋ジストロフィー重症化機序に関する研究	宮崎 大吾	脳神経内科	1,430,000	補委	日本学術振興会
アレルギー性輸血副反応発症機序の全貌解明を目指した患者因子ならびに製剤因子の解析	柳沢 龍	輸血部	1,560,000	補委	日本学術振興会
知的発達症におけるヒストンリジンメチル化の役割の解明	高野 亨子	遺伝子医療研究センター	1,170,000	補委	日本学術振興会
Autophagy-脂肪酸代謝クロストーク変調が腎障害に及ぼす影響についての解析	上條 祐司	血液浄化療法部	1,300,000	補委	日本学術振興会
膵島移植における新規β細胞増殖培養技術の開発	三田 篤義	移植外科	780,000	補委	日本学術振興会
気圧変化に着目した癒着性腸閉塞発症メカニズムの解明	山本 悠太	消化器外科	2,449,795	補委	日本学術振興会
免疫細胞を標的とした新たな遷延性術後痛メカニズムの解明と治療戦略	石田 公美子(松尾公美子)	麻酔科蘇生科	780,000	補委	日本学術振興会
新規画像処理ソフトを用いた人工知能による「くも膜下出血発症予測システム」の開発	小山 淳一	脳血管内治療センター	390,000	補委	日本学術振興会
ハイスピードビデオカメラを用いた流体力学的排尿機能解析法の開発	皆川 倫範	泌尿器科	1,300,000	補委	日本学術振興会
AI機能搭載クラウド型患者情報共有システムの開発と難病医療支援体制構築への応用	日根野 晃代	脳神経内科	1,300,000	補委	日本学術振興会
高齢心疾患患者の入院から退院後1年間のフレイル変化の実態と予後に関する研究	山本 周平	リハビリテーション部	910,000	補委	日本学術振興会
がん病態時におけるオレキシン受容体拮抗薬の体内動態及び臨床効果の個人差要因の解明	内藤 隆文	薬剤部	1,690,000	補委	日本学術振興会
小児固形がんに対するCAR-T細胞とリポソーム化mRNAワクチンによる複合免疫療法の開発	齋藤 章治	小児科	1,170,000	補委	日本学術振興会
バリア機能障害機序とアトピー性皮膚炎発症の関連メカニズムの解明	小川 英作	皮膚科	1,820,000	補委	日本学術振興会
ランゲルハンス細胞組織球症関連神経変性症の新規診断基準の確立と病態解明	坂本 謙一	小児科	2,600,000	補委	日本学術振興会
膵がん微小環境を構築する細胞社会において免疫寛容に寄与するがん代謝機構の解明	細田 清孝	消化器外科	780,000	補委	日本学術振興会
慢性心筋梗塞に対する自家iPS細胞由来心筋細胞移植による心筋再生療法の実用化開発	市村 創	心臓血管外科	1,300,000	補委	日本学術振興会
肺癌に対する多重機能性新規CAR-T細胞療法の開発	三島 修治	呼吸器外科	1,820,000	補委	日本学術振興会
関節炎の骨髄内病変は痛みの原因か?:骨髄指向性鎮痛法の開発	石田 高志	麻酔科蘇生科	910,000	補委	日本学術振興会
Nav1.7阻害薬の局所麻酔薬としての鎮痛作用および運動機能への影響の検討	伊藤 真理子	麻酔科蘇生科	1,040,000	補委	日本学術振興会
人工膝関節置換術後の後十字靭帯の病理組織学的解析と術式決定法の開発	堀内 博志	リハビリテーション部	1,170,000	補委	日本学術振興会
心不全・不整脈発症の予後予測を可能にする次世代	岡田 綾子	循環器内科	1,170,000	補	日本学術

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
遠隔モニタリング・システムの開発	岡田 修一	循環器内科	1,170,000	委 振興会
コルヒチン反応性予測モデルの構築を通じた家族性地中海熱における個別化医療の確立	岸田 大	リウマチ・膠原病内科	1,560,000	補委 日本学術振興会
多系統萎縮症の早期診断を容易にする診断ワークフローの開発	中村 勝哉	脳神経内科	3,120,000	補委 日本学術振興会
THBS2 遺伝子抑制は肝線維化を改善させるか	木村 岳史	消化器内科	910,000	補委 日本学術振興会
アレルギー性輸血副反応の新たな検査法の確立	宇佐美 陽子	分子病態学	1,950,000	補委 日本学術振興会
肝細胞癌局所におけるNK細胞受容体を介した細胞障害性T細胞機能制御機構の解明	野竹 剛	消化器外科	3,770,000	補委 日本学術振興会
肺癌におけるIgG4と免疫細胞分布：線維化と免疫寛容をきたす腫瘍微小環境	江口 隆	呼吸器外科	2,080,000	補委 日本学術振興会
遺伝性結合組織疾患の脊柱変形進行における傍脊柱筋の影響	上原 将志	整形外科	1,560,000	補委 日本学術振興会
動脈硬化による下部尿路症状に対する積層型間葉系幹細胞シートを用いた細胞治療の開発	上野 学	泌尿器科	1,170,000	補委 日本学術振興会
子宮頸部胃型腺癌の実験モデルの開発と薬剤感受性の検討	井田 耕一	産科婦人科	1,560,000	補委 日本学術振興会
YAP/TAZを標的とした子宮頸部胃型腺癌の新規治療法の検討	浅香 亮一	産科婦人科学	1,170,000	補委 日本学術振興会
遺伝性難聴に対する遺伝子治療と人工内耳のハイブリッド治療への展開	吉村 豪兼	耳鼻咽喉科頭頸部外科	1,430,000	補委 日本学術振興会
ミトコンドリア移植が創傷治癒に与えるトランスクリプトーム解析	野口 美帆	形成再建外科学	1,300,000	補委 日本学術振興会
立位姿勢・歩行時体幹動揺評価による地域在住高齢者健康予測モデルの開発	池上 章太	リハビリテーション部	2,080,000	補委 日本学術振興会
がん細胞の不均一性に対応した二重特異性CAR-T細胞の開発	平林 耕一	小児医学	910,000	補委 日本学術振興会
肺気腫合併肺高血圧ラットモデルを用いた低酸素誘導性血管新生蛋白の定量解析	和田 洋典	呼吸器・感染症内科	650,000	補委 日本学術振興会
KRAS変異G12C、G12D選択阻害剤の耐性メカニズムの解明	北沢 将人	消化器外科	1,170,000	補委 日本学術振興会
心血管イメージングを用いたコルヒチンの冠動脈プラークに対する抗炎症作用の評価	植木 康志	循環器内科	1,950,000	補委 日本学術振興会
重症虚血肢に対する脂肪幹細胞移植と血管内治療における表面マーカーの検討	加藤 太門	循環器内科	780,000	補委 日本学術振興会
心臓交感神経求心路を標的とした心不全進展抑制におけるTRPV1の意義の解明	吉江 幸司	循環器内科	910,000	補委 日本学術振興会
狭窄性腱鞘炎における加齢と閉経が及ぼす複合的な影響の解明	岩川 絃子	整形外科	1,040,000	補委 日本学術振興会
機械学習によるテラーメイド型院内急変予測モデルの開発	上條 泰	高度救命救急センター	1,040,000	補委 日本学術振興会
妊婦・授乳婦における新規不眠症治療薬の母乳/胎盤移行性と個人差要因の解明	小澤 秀介	薬剤部	1,690,000	補委 日本学術振興会
児童思春期の神経性やせ症を対象とした日本版マルチファミリーセラピーの開発	公家 里依	子どものこころ診療部	780,000	補委 日本学術振興会
遅発性カトニアの新規疾患原因遺伝子変異の探索と包括的遺伝子解析	石田 紗永子(横塚 紗永子)	精神科神経科	2,080,000	補委 日本学術振興会
脳波Phase Amplitude Coupling解析を利用した麻酔深度モニターの開発	田中 竜介	麻酔科蘇生科	1,300,000	補委 日本学術振興会
側弯症モデルを用いた矯正手術に必要な椎弓根スクリュー挿入領域と挿入密度の予測	大場 悠己	運動機能学	1,560,000	補委 日本学術振興会
がんの骨転移における至適リハビリテーションシステムの構築	田中 厚誌	整形外科	1,170,000	補委 日本学術振興会
音声認識・言語情報処理技術を用いた術中教育モデル	金公 康平	脳神経外科	1,130,000	補 日本学術

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
				補助元	委託元
ルの確立			1,430,000	○	振興会
がん抗体薬併用療法における臨床効果の個人差に着目した薬物間相互作用の定量的解析	柴田 海斗	薬剤部	1,430,000	○	日本学術振興会
CDK4/6阻害剤投与方法の最適化を目指した個人差要因評価に基づくバイオマーカーの構築	渡辺 宏晃	薬剤部	1,820,000	○	日本学術振興会
せん妄薬物治療適正化を目的とした病院フォーミュラリー醸成のためのエビデンス創出	松尾 純	薬剤部	1,300,000	○	日本学術振興会
炎症性腸疾患における腫瘍進展メカニズムとバイオマーカー発現の解析	岩谷 舞	臨床検査部	2,080,000	○	日本学術振興会
乳癌に対するセンチネルリンパ節で産生されるT細胞を用いた新たな免疫療法の創出	大場 崇旦	乳腺内分泌外科	1,170,000	○	日本学術振興会
大腸癌におけるSOS-1阻害剤の耐性化機序の解明	本藤 奈緒	消化器外科	1,040,000	○	日本学術振興会
NGSでは検出困難なUBTF遺伝子縦列重複変異を高感度に検出するPCR検査法確立	宮崎 あかり	臨床検査部	650,000	○	日本学術振興会
Deep Learningを用いた時系列データ解析による肺癌脳転移の予後予測	一戸 記人	放射線部	1,300,000	○	日本学術振興会
単純MRIを用いたT1 mappingによる膵機能評価モデルと膵機能予測モデルの開発	倉石 康弘	消化器内科	910,000	○	日本学術振興会
エーラス・ダンロス症候群の分子遺伝学的発症機序の包括的解明	山口 智美	遺伝子医療研究センター	1,430,000	○	日本学術振興会
ラットの肺切除モデルを用いた肺実質温存の意義の解明: 肺切除量と活動量の関連	三浦 健太郎	呼吸器外科	2,600,000	○	日本学術振興会
痛覚神経選択的な体性感覚誘発電位を用いた全身麻酔薬の痛覚伝達経路への影響の解明	蜜澤 邦洋	麻酔科蘇生科	2,860,000	○	日本学術振興会
Myostatinによる筋組織由来間葉系前駆細胞の腱細胞への分化誘導	北村 陽	整形外科	1,560,000	○	日本学術振興会
空間マルチオミックスによる頭頸部癌の病態解明	横田 陽	耳鼻咽喉科頭頸部外科	2,210,000	○	日本学術振興会
中心静脈あるいは皮静脈穿刺時における超音波ガイド下教育システムの構築	新田 憲市	高度救命救急センター	1,560,000	○	日本学術振興会
アレルギー性輸血副反応に関連する遺伝的背景の探索と発症予測検査法の構築	紺野 沙織	臨床検査部	3,770,000	○	日本学術振興会
HAL(R)の遺伝性ATTRアミロイドーシス患者に対するリハビリテーション効果の検証	松嶋 聡	脳神経内科	2,080,000	○	日本学術振興会
CD116 陽性急性骨髄性白血病および若年性骨髄単球性白血病を対象とする非ウイルス遺伝子改変GMR CAR-T細胞のFIH医師主導治験 (AMED)	中沢 洋三	小児科	77,423,385	○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED)
HER2陽性の再発・進行骨・軟部肉腫及び婦人科悪性腫瘍を対象とする非ウイルス遺伝子改変HER2 CAR-T細胞の臨床第 I 相医師主導治験 (AMED)	中沢 洋三	小児科	84,500,000	○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED)
難治・再燃の後天性慢性赤芽球癆に対する経口シロリムスの効果と安全性の評価	中澤 英之	内科:2	83,668,000	○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED)

計74件

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院 における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Kanda S, Niho S, Kurata T, et al	信州がんセン ター	Randomized Phase III Study of EGFR Tyrosine Kinase Inhibitor and Intercalated Platinum-doublet Chemotherapy for Non-small Cell Lung Cancer Harboring EGFR Mutation.	Clin Cancer Res. 2025 Mar 31.	Original Article
2	Kobayashi H, Tohyama S, Ichimura H, et al	循環器内科	Regeneration of Nonhuman Primate Hearts With Human Induced Pluripotent Stem Cell-Derived Cardiac Spheroids.	Circulation. 2024 Aug 20;150(8):611-621.	Original Article
3	Ueki Y, Itagaki T, Kuwahara K	循環器内科	Lipid-lowering Therapy and Coronary Plaque Regression.	J Atheroscler Thromb. 2024 Nov 1;31(11):1479-1495.	Original Article
4	Ueki Y, Itagaki T, Kuwahara K	循環器内科	Outcomes of Intracoronary Imaging-Guided PCI in Patients With Dialysis.	JACC Asia. 2025 Jan 7;5(1):42-45. (オンライン)	Original Article
5	Sawaguchi H, Iwaya Y, Nagaya T, et al	消化器内科	Submucosal tunneling biopsy for diagnosing malignant esophageal stricture.	Gastrointest Endosc. 2025 Feb;101(2):463-464.	Original Article
6	Iwadare T, Kimura T, Yamashita Y, et al	消化器内科	Serum Autotaxin Levels Predict Liver-Related Events in Patients With Primary Biliary Cholangitis: A Long-Term Multicenter Observational Study.	Clin Transl Gastroenterol. 2024 Dec 1;15(12):e00779. (オンライン)	Original Article
7	Kuraishi Y, Horiuchi I, Nakamura A	消化器内科	Effective use of the two-devices-in-one-channel technique for stent exchange following endoscopic ultrasound-guided hepaticogastrostomy.	Dig Endosc. 2024 Sep;36(9):1056-1058.	Original Article
8	Iwaya Y	消化器内科	Author's reply: "Bile reflux is associated with Barrett's esophagus".	Dig Liver Dis. 2024 Jun;56(6):1109.	Letter
9	Yokoyama T, Iwadare T, Yamashita Y, et al	消化器内科	Case of severe alcoholic hepatitis following acute pancreatitis.	Clin J Gastroenterol. 2024 Oct;17(5):915-921.	Case Report
10	Iwadare T, Kimura T, Kunimoto H, et al	消化器内科	Long-Term pemafibrate treatment exhibits limited impact on body fat mass in patients with hypertriglyceridemia accompanying NAFLD.	Front Endocrinol (Lausanne). 2024 May 17;15:1329294. (オンライン)	Original Article
11	Sawaguchi H, Uehara T, Iwaya M, et al	消化器内科	Leucine-rich repeat-containing G protein-coupled receptor 5 expression in lymph node metastases of colorectal cancer: Clinicopathological insights and prognostic implications.	Pathol Int. 2024 Jul;74(7):387-393.	Original Article
12	Kuraishi Y, Shimizu Y, Nakamura A, et al	消化器内科	Enhanced biliary cannulation and sphincterotomy using a novel rotatable sphincterotome for surgically altered anatomy.	Endoscopy. 2025 Dec;57(S 01):E22-E24.	Original Article
13	Okamura T, Ito A, Iwaya Y, et al	消化器内科	Long-term evaluation of Helicobacter pylori screening in school health checkups: an 11-year study in Japan.	J Gastroenterol. 2025 Jun;60(6):696-704.	Original Article

14	Kuraishi Y, Nakamura A, Kondo S, et al	消化器内科	Endoscopic assessment of minor papilla morphology: Predictors of successful cannulation and procedural pancreatitis risk in minor papilla endotherapy.	J Hepatobiliary Pancreat Sci. 2024 Dec;31(12):926-934.	Original Article
15	Iwadare T, Kimura T, Okumura T, et al	消化器内科	Serum autotaxin is a prognostic indicator of liver-related events in patients with non-alcoholic fatty liver disease.	Commun Med (Lond). 2024 Apr 16;4(1):73. (オンライン)	Original Article
16	Horiuchi I, Horiuchi K, Horiuchi A, et al	消化器内科	Serum Leucine-Rich I±2 Glycoprotein Could Be a Useful Biomarker to Differentiate Patients with Normal Colonic Mucosa from Those with Inflammatory Bowel Disease or Other Forms of Colitis.	J Clin Med. 2024 May 17;13(10):2957. (オンライン)	Original Article
17	Kuraishi Y, Horiuchi I, Nakamura A	消化器内科	Novel over-the-wire stent exchange technique with a loop cutter for endoscopic transpapillary gallbladder drainage in a complex anatomical case.	Dig Endosc. 2025 Jan 20.	Original Article
18	Kobayashi Y, Yamashita Y, Kimura T, et al	消化器内科	Hormone replacement therapy for steatotic liver management after surgical menopause.	Clin J Gastroenterol. 2025 Apr;18(2):352-356.	Case Report
19	Kobayashi Y, Iwadare T, Kobayashi H, et al	消化器内科	Successful portosystemic shunt embolization resolves hepatic encephalopathy and enhances hepatic function and glycemic control in MASH-related cirrhosis: a case report.	Clin J Gastroenterol. 2025 Feb;18(1):137-144.	Case Report
20	Kuraishi Y, Nakamura A, Umemura T	消化器内科	Management of a fractured and retained plastic stent during endoscopic ultrasound-guided hepaticogastrostomy.	Endoscopy. 2025 Dec;57(S 01):E53-E55.	Original Article
21	Yamazaki T, Cable EE, Schnabl B	消化器内科	Peroxisome proliferator-activated receptor delta and liver diseases.	Hepatol Commun. 2025 Feb 3;9(2):e0646. (オンライン)	Original Article
22	Kimura T, Yamazaki T, Estrela GR	消化器内科	Editorial: Multi-organ linkage pathophysiology and therapy for NAFLD and NASH.	Front Endocrinol (Lausanne). 2024 Jun 5;15:1418066. (オンライン)	Original Article
23	Makishima H, Mikasa T, Isogaya K, et al	血液内科	Association between gene mutations and outcomes in Japanese high-risk AML patients: a phase 1/2 study of NS-87/CPX-351.	Int J Hematol. 2025 Feb 27.	Original Article
24	Kawakami T, Kawakami F, Matsuzawa S, et al	血液内科	Mutational heterogeneities in STAT3 and clonal hematopoiesis-related genes in acquired pure red cell aplasia.	Ann Hematol. 2025 Mar;104(3):1471-1479.	Original Article
25	Sonoda K, Komatsu M, Ozawa Y, et al	腎臓内科	Investigation of the Effect of Therapeutic Plasma Exchange for TAFRO Syndrome: A Pilot Study.	Biomedicines. 2024 Apr 11;12(4):849. (オンライン)	Original Article
26	Midorikawa H, Kuniwa Y, Okuyama R	皮膚科	A case of siliconoma in the penis in which microanalysis was useful for diagnosis.	J Dermatol. 2025 Feb;52(2):e155-e156.	Letter
27	Minagawa A, Koga H, Matsunaga K, et al	皮膚科	Difference in computer-assistance effects on human doctor accuracy in diagnosing acral and non-acral pigmented skin tumors.	J Dermatol. 2024 May;51(5):735-737.	Letter
28	Nakamura K, Yaguchi T, Murata M, et al	皮膚科	Tumor eradication by triplet therapy with BRAF inhibitor, TLR 7 agonist, and PD-1 antibody for BRAF-mutated melanoma.	Cancer Sci. 2024 Sep;115(9):2879-2892.	Original Article
29	Osawa K, Minagawa A, Fukuzawa M, et al	皮膚科	Red nodule on the scrotum.	JAAD Case Rep. 2025 Mar 20;60:76-78. (オンライン)	Original Article

30	Matsubara N, Teramoto A, Takei M, et al	放射線科	Retaking assessment system based on the inspiratory state of chest X-ray image.	Radiol Phys Technol. 2025 Jun;18(2):384–398.	Original Article
31	Takagi Y, Gomibuchi T, Ohashi N, et al	心臓血管外科	Aortic Replacement for a Crawford II Thoracoabdominal Aneurysm With a Right-Sided Descending Aorta: A Case Report.	Cureus. 2024 Sep 9;16(9):e68991. (オンライン)	Case Report
32	Sato M, Mutai H, Yamamoto S, et al	リハビリテーション科	Characteristics of longitudinal changes in quality of life and associated factors in patients post cardiac and thoracic aortic surgery: insights from a prospective cohort study.	J Patient Rep Outcomes. 2024 Sep 26;8(1):111. (オンライン)	Original Article
33	Iwaya M, Kodama M, Abe K, et al	臨床検査部	Variability in morphology and immunohistochemistry of Crohn's disease-associated small bowel neoplasms: implications of Claudin 18 and Cadherin 17 expression for tumor-targeted immunotherapies.	Virchows Arch. 2025 Mar;486(3):595–603.	Original Article
34	Tamada H, Uehara T, Yoshizawa T, et al	臨床検査部	Exploring LGR5 as a prognostic marker of extrahepatic cholangiocarcinoma: insights from expression analysis and clinical correlations.	Diagn Pathol. 2024 Aug 28;19(1):116. (オンライン)	Original Article
35	Asaka S, Verma N, Yen TT, et al	臨床検査部	Association of glutaminase expression with immune-suppressive tumor microenvironment, clinicopathologic features, and clinical outcomes in endometrial cancer.	Int J Gynecol Cancer. 2024 Nov 4;34(11):1737–1744. (オンライン)	Original Article
36	Sasaoka M, Kakino A, Villalobos-Labra R, et al	臨床検査部	A Novel ELISA System for Measuring Modified LDL-Adiponectin Complex.	J Atheroscler Thromb. 2025 Feb 21.	Original Article
37	Nobuoka M, Mukawa T, Iwaya M, et al	臨床検査部	SMARCB1-deficient renal medullary carcinoma with an EML4::ALK fusion gene in a Japanese woman.	Pathol Int. 2024 Dec;74(12):704–707.	Case Report
38	Nakamura K	遺伝子医療研究センター	Clinical genetic approaches to the management of patients with myotonic dystrophy type 1 and their families.	Dev Med Child Neurol. 2025 Mar;67(3):281–282.	Original Article
39	Kuge R, Hasegawa A, Morino Y, et al	子どものこころ診療部	Group cognitive remediation therapy for adolescents with anorexia nervosa: Outcomes before, after, and during follow-up in a real-world setting in Japan.	Clin Child Psychol Psychiatry. 2024 Oct;29(4):1333–1348.	Original Article
40	Mamiya K, Iida H, Iseki M, et al	信州がんセンター	Consensus statement on chronic pain treatment in cancer survivors.	J Anesth. 2025 Apr;39(2):161–181.	Original Article
41	Koizumi T, Sato A, Kitajima K, et al	信州がんセンター	An ACTH-Producing Neuroendocrine Tumor: Clinical Course of Multidisciplinary Therapy Including Peptide Receptor Radionuclide Therapy – A Case Report.	Case Rep Oncol. 2025 Jan 31;18(1):181–189. (オンライン)	Case Report
42	Takaoka T, Yaegashi A, Watanabe D	臨床栄養部	Prevalence of and Survival with Cachexia among Patients with Cancer: A Systematic Review and Meta-Analysis.	Adv Nutr. 2024 Sep;15(9):100282.	Original Article
43	Ide T, Araki T, Koizumi T	薬剤部	Thromboembolism during immune checkpoint inhibitor therapy: frequency and risk factors.	Discov Oncol. 2024 Oct 5;15(1):527. (オンライン)	Original Article
44	Ozawa S, Matsuzawa N, Fuseya C, et al	薬剤部	Maternal Serum and Cord Blood Levels of Levetiracetam and Valproate at Delivery and Their Associations With Neonatal Abstinence-Related Symptoms.	Ther Drug Monit. 2024 Oct 15.	Original Article
45	Terasawa M, Shibata K, Mimura A, et al	薬剤部	Serum Profiles of Solifenacin and Interleukin-6 and Their Relationship With Psychiatric Symptoms in a Patient With Overactive Bladder Syndrome and Systemic Inflammation.	Ther Drug Monit. 2024 Jul 12.	Original Article

46	Takagi Y, Ueda S	臨床研究支援センター	Factors related to the choice of warfarin for treating newly diagnosed nonvalvular atrial fibrillation are associated with safety outcomes during anticoagulation: A new-user, active-comparator, retrospective cohort study.	J Arrhythm. 2024 Nov 6;40(6):1408-1424. (オンライン)	Original Article
47	Komatsu M, Miura K, Yamanaka M, et al	アレルギー内科	Evaluation of radiofrequency identification tag accuracy using bronchoscopy with fluoroscopy and virtual navigation guidance before segmentectomy.	Surg Endosc. 2024 Sep;38(9):5438-5445.	Original Article
48	Araki T, Kanda S, Yazaki T, et al	アレルギー内科	Unfavorable response to capmatinib for MET exon14 skipping after first-line osimertinib in a patient with EGFR-mutated lung adenocarcinoma: A case report and literature review.	Respir Investig. 2024 Jul;62(4):677-680.	Case Report
49	Yazaki T, Kimoto M, Minagawa A, et al	アレルギー内科	Simultaneous Acquisition of T790M Mutation and SCLC Transformation during Targeted Therapy in EGFR-Mutated Lung Adenocarcinoma: A Rare Case Report.	Am J Case Rep. 2024 Jun 1;25:e943466. (オンライン)	Case Report
50	Komatsu M, Sugiyama F, Todoroki K, et al	アレルギー内科	Idiopathic Dendriiform Pulmonary Ossification Diagnosed by Transbronchial Lung Cryobiopsy: A Case Report.	Cureus. 2025 Jan 25;17(1):e77955. (オンライン)	Case Report
51	Droma Y, Ota M, Kobayashi N, et al	アレルギー内科	Genetic Associations with the Susceptibility to High-Altitude Pulmonary Edema in the Japanese Population.	High Alt Med Biol. 2025 Mar 17.	Original Article
52	Tateishi K, Mizugaki H, Ikezawa Y, et al	アレルギー内科	Real-world data of first-line treatment with pembrolizumab for NSCLC with high PD-L1 expression in elderly patients: a subgroup analysis of HOT/NJLCG2001.	Jpn J Clin Oncol. 2025 Mar 5;55(3):253-260.	Original Article
53	Sonehara K, Tateishi K, Yoh K, et al	アレルギー内科	Real-World Study of EGFR-TKI Rechallenge With Another TKI After First-Line Osimertinib Discontinuation in Patients With EGFR-Mutated Non-Small Cell Lung Cancer: A Subset Analysis of the Reiwa Study.	Thorac Cancer. 2025 Jan;16(2):e15507.	Original Article
54	Nomi H, Ueki Y, Sunohara D, et al	循環器内科	Balloon Pulmonary Angioplasty for Chronic Total Occlusion Using Contralateral Injection in a Patient With A?CTEPH.	JACC Cardiovasc Interv. 2025 Mar 10;18(5):666-667.	Original Article
55	Suzuki S, Amano M, Nakagawa S, et al	循環器内科	Outcomes of Watchful Waiting Strategy and Predictors of Postoperative Prognosis in Asymptomatic or Equivocally Symptomatic Chronic Severe Aortic Regurgitation With Preserved Left Ventricular Function.	J Am Heart Assoc. 2024 Oct 15;13(20):e036292.	Original Article
56	Kanzaki Y, Ueki Y, Sunohara D, et al	循環器内科	Impact of multiple ballooning on coronary lesions as assessed by optical coherence tomography and intravascular ultrasound.	Catheter Cardiovasc Interv. 2024 Nov;104(5):945-951.	Original Article
57	Komatsu T, Okada A, Shoda M, et al	循環器内科	Outcome of transvenous lead extraction in nonagenarians: A single-center retrospective study.	Pacing Clin Electrophysiol. 2024 Oct;47(10):1293-1299.	Original Article
58	Kanzaki Y, Minamisawa M, Motoki H, et al	循環器内科	Prognostic Impact of the Ratio of Hemoglobin to Red Blood Cell Distribution Width in Patients after Acute Decompensated Heart Failure.	Intern Med. 2025 Mar 15;64(6):807-816.	Original Article
59	Suzuki S, Teraoka N, Ito K, et al	循環器内科	A Novel Predictive Score Model for Successful Weaning From Mechanical Circulatory Support in Patients With Cardiogenic Shock.	J Card Fail. 2025 May;31(5):791-799.	Original Article
60	Harada M, Motoki H, Kuwahara K	循環器内科	Transitional Care for Adult Patients with Congenital Heart Disease.	Intern Med. 2025 Feb 15;64(4):483-491.	Original Article
61	Suzuki S, Ito K, Teraoka N, et al	循環器内科	Treatment time limit for successful weaning from veno-arterial extracorporeal membrane oxygenation in cardiogenic shock.	ESC Heart Fail. 2024 Dec;11(6):3767-3774.	Original Article

62	Kato T, Minamisawa M, Miura T, et al	循環器内科	Impact of hyper-polypharmacy due to non-cardiovascular medications on long-term clinical outcomes following endovascular treatment for lower limb artery disease: A sub-analysis of the I-PAD Nagano registry.	J Cardiol. 2024 Dec;84(6):379-387.	Original Article
63	Iguchi J, Suzuki S, Kimura K, et al	循環器内科	A tri-leaflet mitral valve with left ventricular non-compaction cardiomyopathy.	Eur Heart J Imaging Methods Pract. 2024 Oct 26;2(3):qyae111. (オンライン)	Case Report
64	Sunohara D, Saigusa T, Ueki Y, et al	循環器内科	Prognostic value of HELT-E(2)S(2) score among patients undergoing percutaneous coronary intervention: sub-analysis of the SHINANO 5-year registry.	Cardiovasc Interv Ther. 2025 Mar 29.	Original Article
65	Shimotori Y, Okada A, Yoshie K, et al	循環器内科	Advanced retrieval technique using pacemaker lead extraction methods for a long-term implanted inferior vena cava filter with caval penetration of the pancreas.	J Cardiol Cases. 2024 Dec 6;31(2):49-52. (オンライン)	Case Report
66	Minamisawa M, Anzai T, Inomata T, et al	循環器内科	2023 Update of the Japanese Heart Failure Society Scientific Statement on BNP and NT-proBNP Levels in Heart Failure Practice.	J Card Fail. 2025 Mar 20;S1071-9164(25)00139-3.	Original Article
67	Sakurai T, Takei N, Wei Y, et al	循環器内科	Efficient genome editing of two-cell mouse embryos via modified CRISPR/Cas electroporation.	Sci Rep. 2024 Dec 5;14(1):30347. (オンライン)	Original Article
68	Ebisawa S, Tsuchikane E, Kishi K, et al	循環器内科	Percutaneous coronary intervention of chronic total occlusion in patients with prior coronary artery bypass graft: the current situation.	J Invasive Cardiol. 2025 Mar 4.	Original Article
69	Zhao Y, Sakurai T, Kamiyoshi A, et al	循環器内科	Adrenomedullin 2/Intermedin Exerts Cardioprotective Effects by Regulating Cardiomyocyte Mitochondrial Function.	Hypertension. 2025 Mar;82(3):e6-e21.	Original Article
70	Suzuki S, Kimura K, Yoda N, et al	循環器内科	Association of Early Tolvaptan Treatment and Length of In-Hospital Stay in Elderly Patients with Acute Decompensated Heart Failure.	JMA J. 2024 Oct 15;7(4):564-570.	Original Article
71	Motoki H, Masuda I, Oba K, et al	循環器内科	Investigation of the Effect of Empagliflozin on Cardiac Sympathetic and Parasympathetic Nerve Activity Analyzed From Heart Rate Variability Frequency in Japanese Patients With Type 2 Diabetes- Results From the EMPYREAN	Circ J. 2025 Mar 12.	Original Article
72	Minamisawa M, Konishi H, Kitano Y, et al	循環器内科	Patient Journey to Transthyretin Cardiac Amyloidosis Diagnosis- A Japanese Claims Database Study.	Circ J. 2025 Mar 25;89(4):432-441.	Original Article
73	Okina Y, Ueki Y, Kato T, et al	循環器内科	Derivation and Validation of Risk Score Including Nutritional Status Among Patients With Chronic Limb-threatening Ischemia: Insight From I-PAD NAGANO Registry.	J Endovasc Ther. 2025 Feb 6;15266028251314691.	Original Article
74	Okumura T, Umemura T	消化器内科	Hepatitis B surface antigen glycan isomer as a new potential biomarker in patients with hepatitis B virus infection.	Hepatology Res. 2024 Oct;54(10):874-876.	Original Article
75	Okumura T, Joshita S, Kitamura Y, et al	消化器内科	Detection Rates of Hepatitis B Surface and Core-related Antigens Using Novel Highly Sensitive Assays in Chronic Hepatitis B Patients With Hepatitis B Surface Antigen Seroclearance.	Gastro Hep Adv. 2024 Jul 3;3(7):885-887. (オンライン)	Original Article
76	Okumura T, Kimura T, Ichikawa Y, et al	消化器内科	Circulating thrombospondin 2 as a predictor of hepatocellular carcinoma in hepatitis B patients undergoing nucleos(t)ide analog therapy.	Sci Rep. 2024 Oct 26;14(1):25584. (オンライン)	Original Article
77	Okumura T, Umemura T	消化器内科	Growing evidence on the highly sensitive iTACT assay of hepatitis B core-related antigen for predicting hepatitis B virus reactivation.	J Gastroenterol. 2025 Jan;60(1):129-130.	Original Article

78	Iwadare T, Kimura T, Sugiura A, et al	消化器内科	Thrombospondin 2 as a Predictive Biomarker for HCC in A? Hepatitis C Patients: A Longitudinal Study Following DAA Therapy.	J Viral Hepat. 2025 Apr;32(4):e14025.	Original Article
79	Wakabayashi SI, Tamaki N, Kimura T, et al	消化器内科	Natural history of lean and non-lean metabolic dysfunction-associated steatotic liver disease.	J Gastroenterol. 2024 Jun;59(6):494-503.	Original Article
80	Okumura T, Suzuki S, Ota M, et al	消化器内科	Identification of the Novel Allele HLA-C*04:535 by Next-Generation Sequencing.	HLA. 2024 Dec;104(6):e15795	Original Article
81	Kimura T, Tamaki N, Wakabayashi SI, et al	消化器内科	Colorectal Cancer Incidence in Steatotic Liver Disease (MASLD, MetALD, and ALD).	Clin Gastroenterol Hepatol. 2025 Jan 31;S1542-3565(25)00074-6.	Original Article
82	Yamaka K, Aomura D, Harada M, et al	腎臓内科	Lupus Peritonitis Development in a Patient with Coronavirus Disease 2019 on Peritoneal Dialysis: A Case Report.	Tohoku J Exp Med. 2024 Oct 24.	Original Article
83	Kurihara S, Yamaguchi A, Sonoda K, et al	腎臓内科	Anti-C5 monoclonal antibody treatment showing pathological resolution of complement-mediated atypical hemolytic uremic syndrome: a case report.	BMC Nephrol. 2024 Jul 15;25(1):224. (オンライン)	Case Report
84	Inui K, Yamada Y, Aomura D, et al	腎臓内科	Novel Membrane Designed Polyether Sulfone Filter Reduces Filtration Membrane Obstruction Rate in Drop-Type With Adjustable Concentrator Cell-Free and Concentrated Ascites Reinfusion Therapy (DC-CART).	Artif Organs. 2025 Apr;49(4):592-599.	Original Article
85	Hashimoto K, Kamijo Y	腎臓内科	Current Progress in Peritoneal Dialysis: A Narrative Review of Progress in Peritoneal Dialysis Fluid.	Life (Basel). 2025 Feb 11;15(2):279. (オンライン)	Original Article
86	Nimura T, Harada M, Aomura D, et al	腎臓内科	Impact of prepared vascular access on mortality and medical expenses in elderly and non-elderly Japanese patients with chronic kidney disease stage G5: a retrospective cohort study.	Clin Exp Nephrol. 2025 Mar 18.	Original Article
87	Kamijo Y, Usuda M, Matsuno A, et al	脳神経内科	Successful Maintenance Therapy with Intravenous Immunoglobulin to Reduce Relapse Attacks and Steroid Dose in a Patient with Refractory Myelin Oligodendrocyte Glycoprotein Antibody-positive Optic Neuritis.	Intern Med. 2025 Mar 1;64(5):775-779.	Case Report
88	Nomura S, Shimojima Y, Kishida D, et al	脳神経内科	Low serum complements in idiopathic inflammatory myositis: clinical features and impact on the prognosis.	Immunol Med. 2024 Dec;47(4):238-246.	Original Article
89	Kurashina JI, Shimojima Y, Kishida D, et al	脳神経内科	Multiple lymphadenopathies in eosinophilic granulomatosis with polyangiitis: Differentiating from IgG4-related lymphadenopathy.	Mod Rheumatol Case Rep. 2024 Jul 8;8(2):318-322.	Case Report
90	Takamatsu R, Shimojima Y, Kishida D, et al	脳神経内科	Headache in systemic lupus erythematosus: The LUNA registry cross-sectional study.	Lupus. 2024 Aug;33(9):901-909.	Original Article
91	Kishida D, Yazaki M, Nakamura A, et al	脳神経内科	Impact of multiple MEFV variants of unknown significance on the diagnosis and clinical presentation of familial Mediterranean fever.	Immunol Med. 2024 Sep;47(3):186-191.	Original Article
92	Shimojima Y, Ichikawa T, Kishida D, et al	脳神経内科	HLA-E-expressing macrophage polarization and increased NKG2A/CD94 expression in adult-onset Still's disease.	Immunol Res. 2024 Oct;72(5):1108-1119.	Original Article
93	Mochizuki Y, Katoh N, Matsushima A, et al	脳神経内科	Involvement of bile acid in diarrhoea and therapeutic effect of colestimide in hereditary ATTR amyloidosis.	Amyloid. 2025 Mar;32(1):39-45.	Original Article

94	Masuko S, Sato M, Nakamura K, et al	脳神経内科	A Novel Synonymous Variant in SQSTM1 Causes Neurodegeneration With Ataxia, Dystonia, and Gaze Palsy Revealed by Urine-Derived Cells-Based Functional Analysis.	Mol Genet Genomic Med. 2024 Nov;12(11):e70044	Case Report
95	Tajiri M, Sato M, Kodaira M, et al	脳神経内科	Neurofilament light chain as a biomarker for hereditary ATTR amyloidosis—a correlation between neurofilament light chain and nerve conduction study.	Amyloid. 2024 Dec;31(4):326–333.	Original Article
96	Shimajima Y, Nomura S, Ushiyama S, et al	脳神経内科	Early skeletal muscle manifestations in polyarteritis nodosa and ANCA-associated vasculitis.	Autoimmun Rev. 2024 Jul–Aug;23(7–8):103602.	Original Article
97	Sekijima Y, Sousa L	脳神経内科	Pathogenesis, manifestations, diagnosis, and management of CNS complications in hereditary ATTR amyloidosis.	Amyloid. 2025 Jun;32(2):117–128.	Original Article
98	Tanomogi N, Shimajima Y, Ichikawa T, et al	脳神経内科	Vasculitic Myopathy as an Early Manifestation of ANCA-Associated Vasculitis: The Necessity of Its Differentiation From Polymyalgia Rheumatica.	Int J Rheum Dis. 2024 Dec;27(12):e70019	Letter
99	Nishizawa H, Nakamura A	リウマチ・膠原病内科	Yearly motor function changes in patients with Duchenne muscular dystrophy, including a COVID-19 behavioral restriction period.	J Phys Ther Sci. 2024 Nov;36(11):699–702.	Original Article
100	Nakamura K, Yoshinaga T, Sakyu A, et al	リウマチ・膠原病内科	Genetic counselling for at-risk family members with hereditary transthyretin amyloidosis: data from a single-centre study.	Amyloid. 2024 Sep;31(3):179–183.	Original Article
101	Miyazaki D, Sato M, Shiba N, et al	リウマチ・膠原病内科	Becker muscular dystrophy mice showed site-specific decay of type IIa fibers with capillary change in skeletal muscle.	Elife. 2025 Mar 17;13:RP100665. (オンライン)	Original Article
102	Kubota S, Sato A, Hosokawa M, et al	糖尿病・内分泌代謝内科	Improving glycemic control by transitioning from the MiniMed(TM) 640G to 770G in Japanese adults with type 1 diabetes mellitus: a prospective, single-center, observational study.	Endocr J. 2024 Oct 1;71(10):955–963.	Original Article
103	Shibata Y, Oiwa A, Tanaka H, et al	糖尿病・内分泌代謝内科	Characteristics of patients with Graves' disease who developed drug resistance and required surgery.	Endocr J. 2025 Apr 1;72(4):365–373.	Original Article
104	Wang Y, Diao P, Aomura D, et al	糖尿病・内分泌代謝内科	Dietary Polyunsaturated Fatty Acid Deficiency Impairs Renal Lipid Metabolism and Adaptive Response to Proteinuria in Murine Renal Tubules.	Nutrients. 2025 Mar 10;17(6):961. (オンライン)	Original Article
105	Hasegawa K, Inaba Y, Toubou H, et al	小児科	Prenatal mercury exposure and the secondary sex ratio: The Japan Environment and Children's Study.	Reprod Toxicol. 2024 Dec;130:108685.	Original Article
106	Hasegawa K, Inaba Y, Saito S, et al	小児科	Associations between maternal per- and polyfluoroalkyl substances exposure and lipid levels in maternal and cord blood: The Japan environment and Children's study.	Environ Res. 2024 Dec 15;263(Pt 3):120217.	Original Article
107	Honda H	小児科	The necessity for a simple and reliable screening tool for developmental concerns: Validity of the ESSENCE-Q.	Dev Med Child Neurol. 2024 Dec;66(12):1537–1538.	Original Article
108	Nomiyama T, Tsukahara T, Hasegawa K	小児科	Health risks of N,N-dimethylacetamide (DMAC) in humans.	J Occup Health. 2025 Feb 7;uiaf010.	Original Article
109	Hasegawa K, Motoki N, Inaba Y, et al	小児科	Maternal Exposure to Per- and Polyfluoroalkyl Substances and Offspring Chromosomal Abnormalities: The Japan Environment and Children's Study.	Environ Health Perspect. 2024 Sep;132(9):97004.	Original Article

110	Nomiyama T, Tsukahara T, Hasegawa K	小児科	Health risks of N,N-dimethylacetamide (DMAC) in humans.	J Occup Health. 2025 Feb 7;67(1):uiaf010. (オンライン)	Original Article
111	Yazawa S, Matsuoka D, Murase T, et al	小児科	Recurrent Abdominal Pain Due to Acute Renal Failure With Loin Pain and Patchy Renal Ischemia After Anaerobic Exercise.	Cureus. 2024 Jun 26;16(6):e63220. (オンライン)	Case Report
112	Furui Y, Saito S, Maruyama Y, et al	小児科	Successful ibrutinib treatment for pulmonary involvement in a post-transplant patient with inherited bone marrow failure syndrome and very short telomeres.	Pediatr Blood Cancer. 2024 Dec;71(12):e31314	Letter
113	Tanabe S, Furui Y, Saito S, et al	小児科	Paediatric acute lymphoblastic leukaemia-associated haemophagocytic lymphohistiocytosis develops during prednisolone prephase.	Br J Haematol. 2024 Nov;205(5):2031-2035.	Letter
114	Takeuchi S, Shigemura T, Shigeto S, et al	小児科	Unrelated cord blood transplantation using minimal-intensity conditioning in a 1.5-month-old infant with X-linked severe combined immunodeficiency.	Transpl Immunol. 2024 Dec;87:102115.	Case Report
115	Sakai Y, Nakayama Y, Kurasawa S, et al	小児科	Multiple endocrine neoplasia type 2B diagnosed after small intestinal volvulus with progressive megacolon in an adolescent.	Clin J Gastroenterol. 2024 Aug;17(4):640-646.	Case Report
116	Saito S, Nakazawa Y	小児科	CAR-T cell therapy in AML: recent progress and future perspectives.	Int J Hematol. 2024 Oct;120(4):455-466.	Original Article
117	Okura E, Sakamoto K, Maruyama Y, et al	小児科	Ruxolitinib for preventing relapse of Epstein-Barr virus-associated hemophagocytic lymphohistiocytosis.	Pediatr Int. 2025 Jan-Dec;67(1):e70032.	Original Article
118	Morokawa H, Hirabayashi K, Furui Y, et al	小児科	Long-Term Outcomes of Reduced-Toxicity Conditioning Using 8-Gray Total Body Irradiation, Fludarabine, and Cyclophosphamide in Children, Adolescents, and Young Adults With Hematological Malignancies.	Hematol Oncol. 2025 Jan;43(1):e70026.	Original Article
119	Morita D, Rosewell Shaw A, Biegert G, et al	小児科	Additional expression of T-cell engager in clinically tested oncolytic adeno-immunotherapy redirects tumor-infiltrated, irrelevant T cells against cancer cells to enhance antitumor immunity.	J Immunother Cancer. 2024 Dec 9;12(12):e009741. (オンライン)	Original Article
120	Kurasawa S, Horiuchi I, Kajiyama M, et al	小児科	Injured submucosal arteries following cold snare polypectomy are significantly fewer versus those after endoscopic mucosal resection for 10-19-mm nonpedunculated colorectal polyps.	DEN Open. 2025 Mar 18;5(1):e70099. (オンライン)	Original Article
121	Shigemura T, Kobayashi N, Uehara T, et al	小児科	Fatal CAEBV-Associated Vasculitis in ICF Syndrome Type 2.	J Investig Allergol Clin Immunol. 2025 Apr 22;35(2):150-152.	Original Article
122	Tsukahara Y, Kurozumi M, Matsuda J, et al	放射線科	Successful embolization of a primary bronchial artery racemose hemangioma by the ingenious use of a microballoon catheter.	Radiol Case Rep. 2024 Jul 24;19(10):4260-4265. (オンライン)	Case Report
123	Oyama K, Kurashina M, Ichinohe F, et al	放射線科	Effect of the Relationship between Respiratory Interval and Temporal Resolution on Image Quality in Free-breathing Abdominal MR Imaging.	Magn Reson Med Sci. 2024 May 17.	Original Article
124	Suzuki T, Matsuda J, Tsukahara Y, et al	放射線科	Optimal combination of microcoils, flow control, and n-butyl cyanoacrylate-Lipiodol-iopamidol (2:3:1) for feasible embolization of medium-sized arteries in an in vitro vascular model.	Jpn J Radiol. 2025 Feb;43(2):301-308.	Original Article
125	Okajima Y, Yanagisawa S, Yamada A, et al	放射線科	Predictability of combining Technetium-99m-galactosyl human serum albumin single-photon emission computed tomography/computed tomography and indocyanine green clearance test for posthepatectomy liver failure.	Jpn J Radiol. 2024 Nov;42(11):1280-1289.	Original Article

126	Ohya A, Miyamoto T, Ichinohe F, et al	放射線科	Problems of magnetic resonance diagnosis for gastric-type mucin-positive cervical lesions of the uterus and its solutions using artificial intelligence.	PLoS One. 2024 Dec 30;19(12):e0315862. (オンライン)	Original Article
127	Todoroki K, Kawakami S, Kiniwa Y, et al	放射線科	Pulmonary metastases from malignant melanoma showing ground-glass opacity nodules.	Jpn J Radiol. 2025 Feb 5.	Original Article
128	Ohya A, Fukuzawa T, Himoto Y, et al	放射線科	Age-related changes in the radiologic findings of lobular endocervical glandular hyperplasia: a multicenter study.	Jpn J Radiol. 2025 Feb 14.	Original Article
129	Kubota K, Shimizu A, Notake T, et al	消化器外科	Laparoscopic median arcuate ligament release using an anterior approach for median arcuate ligament syndrome.	Ann Gastroenterol Surg. 2024 Sep 10;8(6):1137-1143. (オンライン)	Original Article
130	Miyazaki S, Kitazawa M, Nakamura S, et al	消化器外科	Targeting KRAS-mutant pancreatic cancer through simultaneous inhibition of KRAS, MEK, and JAK2.	Mol Oncol. 2025 Feb;19(2):377-390.	Original Article
131	Hosoda K, Shimizu A, Soejima Y	消化器外科	Reply to the Letter to the Editor By Dai et al. on "The Platelet-to-Lymphocyte Ratio is a Complementary Prognostic Factor to Tumor Markers in Predicting Early Recurrence of Hepatocellular Carcinoma After	J Surg Oncol. 2025 Mar;131(4):551-553.	Letter
132	Yamazaki S, Shimizu A, Kubota K, et al	消化器外科	Long-term remnant liver volume dynamics after major hepatectomy for perihilar cholangiocarcinoma following portal vein embolization.	Asian J Surg. 2024 Sep;47(9):3870-3876.	Original Article
133	Sugenoya S, Mita A, Shimizu A, et al	消化器外科	Retro-pancreatic pull-through reconstruction of the hypoplastic portal vein using the autologous mesosystemic shunt vessel in adult living donor liver transplantation: a case report.	Surg Case Rep. 2024 Apr 2;10(1):77. (オンライン)	Original Article
134	Shimizu A, Kubota K, Notake T, et al	消化器外科	Impact of anatomical liver resection for hepatocellular carcinoma in preventing early-phase local recurrence after surgery.	J Hepatobiliary Pancreat Sci. 2024 Aug;31(8):513-527.	Original Article
135	Kitagawa N, Shimizu A, Yamada A, et al	消化器外科	Usefulness of MRI T1 Mapping in Predicting Postoperative Pancreatic Fistula After Distal Pancreatectomy.	Pancreas. 2025 Feb 13.	Original Article
136	Umemura K, Shimizu A, Notake T, et al	消化器外科	Minimum proportion of future liver remnant in safe major hepatopancreatoduodenectomy.	Ann Gastroenterol Surg. 2024 Aug 18;9(1):188-198. (オンライン)	Original Article
137	Hayashi H, Seki S, Tomita T, et al	消化器外科	Synthetic short mRNA prevents metastasis via innate-adaptive immunity.	Nat Commun. 2025 Feb 25;16(1):1925. (オンライン)	Original Article
138	Ikehara T, Shimizu A, Kubota K, et al	消化器外科	Appropriate methods of evaluating future liver remnant volume to predict postoperative liver failure after major hepatectomy based on the body mass of patients with normal hepatic reserve.	Surg Today. 2025 Mar 27.	Original Article
139	Yasukawa K, Shimada S, Akiyama Y, et al	消化器外科	ACVR2A attenuation impacts lactate production and hyperglycolytic conditions attracting regulatory T cells in hepatocellular carcinoma.	Cell Rep Med. 2025 Apr 15;6(4):102038.	Original Article
140	Notake T, Shimizu A, Kubota K, et al	消化器外科	Liver-to-spleen ratio obtained from gadoxetate disodium-enhanced magnetic resonance imaging predicts intrahepatic recurrence after curative resection of hepatocellular carcinoma.	Hepato Res. 2025 May;55(5):730-740.	Original Article
141	Kitazawa M, Nakamura S, Yamamoto Y, et al	消化器外科	Utility of High-positioning Pelvic Pads in Laparoscopic Sigmoid Colon and Rectal Surgeries.	In Vivo. 2025 Mar-Apr;39(2):1078-1085.	Original Article

142	Hosoda K, Shimizu A, Kubota K, et al	消化器外科	Combination of advanced lung cancer inflammation index and nonalcoholic fatty liver disease fibrosis score as a promising marker for surgical procedure selection for hepatocellular carcinoma.	Ann Gastroenterol Surg. 2024 May 20;8(6):1096-1106. (オンライン)	Original Article
143	Yoshizawa T, Uehara T, Iwaya M, et al	消化器外科	An Immunohistochemical Analysis of Osteopontin and S100 Calcium-binding Protein P is Useful for Subclassifying Large- and Small-duct Type Intrahepatic Cholangiocarcinomas.	Am J Surg Pathol. 2024 Jun 1;48(6):751-760.	Original Article
144	Hosoda K, Shimizu A, Kubota K, et al	消化器外科	Clinical significance of the Naples prognostic score in predicting short- and long-term postoperative outcomes of patients with hepatocellular carcinoma.	World J Surg. 2025 Feb;49(2):502-511.	Original Article
145	Shimura M, Kobayashi N, Miyazawa M	呼吸器外科	A case of leiomyosarcoma originating from the azygos vein.	Thorac Cancer. 2024 Nov;15(33):2395-2398.	Case Report
146	Miura K, Eguchi T, Hamanaka K, et al	呼吸器外科	Complex segmentectomy for non-palpable small lung cancer adjacent to the incomplete interlobar fissure using radiofrequency identification.	Gen Thorac Cardiovasc Surg. 2025 Feb;73(2):118-122.	Case Report
147	Matsuoka S, Eguchi T, Iwaya M, et al	呼吸器外科	Prognostic significance of immune-cell distribution and tumoral spread through air spaces - Multiplex spatial immunophenotyping analysis.	Heliyon. 2024 Sep 4;10(17):e37412. (オンライン)	Original Article
148	Koike S, Shiina T, Takasuna K	呼吸器外科	Left ventricular stroke volume decreases due to surgical procedures of anatomical lung resection.	Thorac Cancer. 2024 Oct;15(28):2021-2028.	Original Article
149	Koike S, Miyazawa M, Kobayashi N	呼吸器外科	A rare case of empyema caused by septic arthritis of the sternoclavicular joint, successfully treated with surgical drainage.	J Surg Case Rep. 2024 May 30;2024(5):rjae359. (オンライン)	Case Report
150	Hara D, Kondo R, Nakamura D, et al	呼吸器外科	Surgical sealant using free pericardial fat pad with fibrin glue and polyglycolic acid sheets for secondary spontaneous pneumothorax: a novel technique.	Gen Thorac Cardiovasc Surg. 2024 Oct;72(10):690-692.	Original Article
151	Koyama T, Shimizu K, Mishima S, et al	呼吸器外科	Investigation of pure lung microbiota in patients with lung cancer after eliminating upper airway contamination: a prospective cohort study.	J Thorac Dis. 2024 Nov 30;16(11):7329-7341.	Original Article
152	Matsuoka S, Hara D, Nakamura D, et al	呼吸器外科	Long-term pulmonary repair in rat lungs after sublobar resection: electrocautery versus stapler methods.	Gen Thorac Cardiovasc Surg. 2024 Oct 28.	Original Article
153	Miura K, Ide S, Minamisawa M, et al	呼吸器外科	Impact of preoperative brain natriuretic peptide level for predicting postoperative respiratory complications.	J Thorac Dis. 2024 Dec 31;16(12):8389-8398.	Original Article
154	Kiyosawa N, Oba T, Iji R, et al	乳腺・内分泌外科	Clinical implication of metastasis in the second most radioactive sentinel lymph node with nonmetastatic most radioactive node in patients with breast cancer.	Gland Surg. 2024 Nov 30;13(11):2055-2067.	Original Article
155	Oba T, Maeno K, Iji R, et al	乳腺・内分泌外科	Utility of contrast-enhanced magnetic resonance imaging for planning of surgical procedure in Paget's disease of the breast.	Surg Today. 2025 Jun;55(6):778-786.	Original Article
156	Morikawa H, Oba T, Kitazawa A, et al	乳腺・内分泌外科	CA19-9 producing locally advanced papillary thyroid carcinoma: a case report.	Surg Case Rep. 2024 Apr 10;10(1):83. (オンライン)	Original Article
157	Oba H, Ikegami S, Uehara M, et al	整形外科	Usefulness of modified S-line for upper instrumented vertebra selection in adolescent idiopathic scoliosis Lenke type 1C curve.	Spine Deform. 2024 Nov;12(6):1709-1717.	Original Article

158	Uehara M, Ikegami S, Oba H, et al	整形外科	Frequency and Associated Factors of Venous Thromboembolism in Cervical Spine Surgery.	Int J Spine Surg. 2024 Nov 8;18(5):457-461. (オンライン)	Original Article
159	Oba H, Banno T, Ohba T, et al	整形外科	Excessive posterior placement of upper instrumented vertebra relative to lower instrumented vertebra as a predictor of proximal junction kyphosis after selective spinal fusion for adolescent idiopathic scoliosis Lenke type 5C	Eur Spine J. 2024 Oct;33(10):3814-3822.	Original Article
160	Tensho K, Iwaasa T, Koyama S, et al	整形外科	No Difference in Graft Signal Intensity on Magnetic Resonance Imaging or Clinical Outcome Between Anterior Cruciate Ligament Reconstruction With and Without Suture Augmentation.	Arthroscopy. 2024 Aug 17:S0749-8063(24)00569-3.	Original Article
161	Miyaoka S, Yamazaki H, Hayashi M, et al	整形外科	Elbow Flexion Reconstruction after Traumatic Amputation Using Hinged External Fixator and Muscle Transfer: A Case Report.	JBJS Case Connect. 2024 Sep 20;14(3). (オンライン)	Case Report
162	Yoshida K, Tensho K, Maezumi Y, et al	整形外科	An Insertion Device for Effective Delivery of Fibrin Clot to the Meniscus Tear.	Arthrosc Tech. 2024 May 27;13(9):103042. (オンライン)	Original Article
163	Oba H, Ikegami S, Uehara M, et al	整形外科	Impact of landmark crater creation on improving accuracy of pedicle screw insertion in robot-assisted scoliosis surgery.	Eur Spine J. 2024 Dec;33(12):4730-4739.	Original Article
164	Kumaki D, Tensho K, Iwaasa T, et al	整形外科	Postoperative patient-reported outcome measures after medial open-wedge high tibial osteotomy was improved by decreased joint line convergence angle.	Knee Surg Sports Traumatol Arthrosc. 2024 Aug;32(8):2129-2140.	Original Article
165	Uehara M, Ikegami S, Oba H, et al	整形外科	Impact of osteosclerosis on cervical pedicle screw insertion using preoperative CT-based navigation.	Eur Spine J. 2024 Jun;33(6):2298-2303.	Original Article
166	Uehara M, Ikegami S, Oba H, et al	整形外科	Characteristics of Screw Perforation and Screw Loosening in Atlantoaxial Transarticular Fixation Using a Preoperative Computed Tomography-Based Navigation System.	Int J Spine Surg. 2024 Nov 8;18(5):477-481. (オンライン)	Original Article
167	Koyama S, Tensho K, Yoshida K, et al	整形外科	Is there a difference in bony stability at three months postoperatively between opening-wedge high tibial osteotomy and opening-wedge distal tuberosity osteotomy?	Asia Pac J Sports Med Arthrosc Rehabil Technol. 2024 Nov 20;39:1-8. (オンラ	Original Article
168	Joko I, Kato H, Hayashi M, et al	整形外科	Prevalence and associated factors for primary osteoarthritis of the thumb carpometacarpal joint in the general elderly population: A cohort survey randomly sampled from a basic resident registry of a small rural town in Japan.	J Orthop Sci. 2024 Nov 22:S0949-2658(24)00205-7.	Original Article
169	Oba H, Watanabe K, Asada T, et al	整形外科	Effects of Physiotherapeutic Scoliosis-Specific Exercise for Adolescent Idiopathic Scoliosis Cobb Angle: A Systematic Review.	Spine Surg Relat Res. 2024 Dec 10;9(2):120-129. (オンライン)	Original Article
170	Uehara M, Ikegami S, Takizawa T, et al	整形外科	Is Intraoperative Blood Loss Volume in Elderly Cervical Spine Injury Surgery Greater in Patients with Ankylosis? A Multicenter Survey.	Spine Surg Relat Res. 2024 May 10;8(6):575-582. (オンライン)	Original Article
171	Yanagisawa K, Oba H, Ohba T, et al	整形外科	Zones where reduced implant density leads to correction loss after scoliosis surgery for Lenke 1A adolescent idiopathic scoliosis: a multicenter study.	Spine Deform. 2025 Mar;13(2):587-594.	Original Article
172	Makiyama F, Kawase S, Omi AW, et al	整形外科	Differential effects of structurally different lysophosphatidylethanolamine species on proliferation and differentiation in pre-osteoblast MC3T3-E1 cells.	Sci Rep. 2025 Jan 2;15(1):466. (オンライン)	Original Article
173	Ito K, Yamada M, Uehara K, et al	脳神経外科	Spinal intradural pseudocyst formation in central nervous system superficial siderosis.	Brain Pathol. 2024 Nov;34(6):e13269.	Case Report

174	Hanaoka Y, Koyama JI, Kubota Y, et al	脳神経外科	Forearm access for carotid artery stenting using the dual protection of flow reversal and distal filter: Trans-forearm dual protection technique.	Interv Neuroradiol. 2024 Aug 21;15910199241270903.	Original Article
175	Kajihara R, Kondo E, Fukuda H, et al	特殊歯科・口腔外科	Precursor Radiographic Findings in Patients With Medication-Related Osteonecrosis of the Jaw.	J Oral Maxillofac Surg. 2024 Aug;82(8):984-991.	Original Article
176	Kurita H, Uzawa N, Nakayama H, et al	特殊歯科・口腔外科	Japanese clinical practice guidelines for oral cancer, 2023.	Int J Oral Maxillofac Surg. 2025 May;54(5):461-476.	Original Article
177	Kitahara R, Imamura T, Domen T, et al	泌尿器科	Biofabricated adipose-derived mesenchymal cell sheets recover cryo-injured kidneys in rats.	Tissue Eng Part A. 2024 Sep 14.	Original Article
178	Saito T, Tyagi P, Minagawa T, et al	泌尿器科	Intravesical nerve growth factor antisense therapy for bladder hypersensitivity induced by psychological stress.	Gene Ther. 2024 Nov;31(11-12):607-613.	Original Article
179	Matsumoto Y, Imamura T, Kitahara R, et al	泌尿器科	Bi-layered Adipose Mesenchymal Cell Sheets Improve Bladder Compliance in Spinal Cord-Injured Rats.	Tissue Eng Part A. 2025 May;31(9-10):409-418.	Original Article
180	Saito T, Minagawa T, Yoshimura N, et al	泌尿器科	Experimental murine models of interstitial cystitis/bladder pain syndrome: A review.	Histol Histopathol. 2025 May;40(5):635-644.	Original Article
181	Chiku Y, Hirano T, Hoshiyama K, et al	眼科	Assessment of Retinal Volume in Individuals Without Ocular Disorders Based on Wide-Field Swept-Source OCT.	Ophthalmol Sci. 2024 Jun 21;4(6):100569. (オンライン)	Original Article
182	Hirano T, Murata T, Nakao S, et al	眼科	Optimization of individualized faricimab dosing for patients with diabetic macular edema: Protocol for the SWAN open-label, single-arm clinical trial.	PLoS One. 2024 Oct 10;19(10):e0311484. (オンライン)	Original Article
183	Hirano T, Tanabe K, Murata T	眼科	Factors Influencing Treatment Preference in Patients with Diabetic Macular Edema: A Study Using Conjoint Analysis.	Ophthalmol Ther. 2024 Nov;13(11):2887-2901.	Original Article
184	Chiku Y, Hirano T, Nakamura M, et al	眼科	Investigation of the Reproducibility of Portable Optical Coherence Tomography in Diabetic Macular Edema.	Pharmaceuticals (Basel). 2024 Oct 11;17(10):1357. (オンライン)	Original Article
185	Nakamura M, Hirano T, Chiku Y, et al	眼科	Reproducibility of Portable OCT and Comparison with Conventional OCT.	Diagnostics (Basel). 2024 Jun 21;14(13):1320. (オンライン)	Original Article
186	Hoshiyama K, Hirano T, Takahashi Y, et al	眼科	Longitudinal evaluation of cotton wool spot following rapid glycemic improvement using wide-field multimodal imaging.	Am J Ophthalmol Case Rep. 2024 Dec 25;37:102245. (オンライン)	Case Report
187	Kitoh R, Nishio SY, Sato H, et al	耳鼻咽喉科頭頸部外科	Clinical practice guidelines for the diagnosis and management of acute sensorineural hearing loss.	Auris Nasus Larynx. 2024 Aug;51(4):811-821.	Original Article
188	Kasuga M, Yoshimura H, Takumi Y	耳鼻咽喉科頭頸部外科	Temporal Swelling Following Cochlear Implantation: Frequency, Treatment, and Outcomes.	Otol Neurotol. 2024 Jun 1;45(5):e400-e405.	Original Article
189	Yoshimura H, Okubo T, Shinagawa J, et al	耳鼻咽喉科頭頸部外科	Epidemiology, aetiology and diagnosis of congenital hearing loss via hearing screening of 153a?913 newborns.	Int J Epidemiol. 2024 Apr 11;53(3):dya052.	Original Article

190	Watanabe K, Nishio SY, Usami SI	耳鼻咽喉科頭頸部外科	The prevalence and clinical features of MYO7A-related hearing loss including DFNA11, DFNB2 and USH1B.	Sci Rep. 2024 Apr 9;14(1):8326. (オンライン)	Original Article
191	Tsukada K, Nishio SY, Takumi Y, et al	耳鼻咽喉科頭頸部外科	Comparison of vestibular function in hereditary hearing loss patients with GJB2, CDH23, and SLC26A4 variants.	Sci Rep. 2024 May 8;14(1):10596. (オンライン)	Original Article
192	Tanaka Y, Ando H, Miyamoto T, et al	産科婦人科	Usefulness of decision tree analysis of MRI features for diagnosis of placenta accreta spectrum in cases with placenta previa.	Jpn J Radiol. 2025 Mar;43(3):492–501.	Original Article
193	Miyamoto T, Ida K, Tanaka Y, et al	産科婦人科	Whole-exome Sequence Analysis of Gastric-type Adenocarcinoma of the Uterine Cervix and Adjacent Lobular Endocervical Glandular Hyperplasia in the Same Case.	Int J Gynecol Pathol. 2025 Mar 1;44(2):125–129.	Case Report
194	Higuchi S, Miyamoto T, Oka K, et al	産科婦人科	Successful pregnancy using immature oocytes retrieved from resected borderline ovarian tumor: a case report and literature review.	Contracept Reprod Med. 2024 May 16;9(1):24. (オンライン)	Original Article
195	Shioya Y, Ando H, Miyamoto T, et al	産科婦人科	Surgical management of endometrial cancer in patient with musculocontractural Ehlers–Danlos Syndrome harboring pathogenic variants in CHST14 (mcEDS–CHST14): A case report.	Gynecol Oncol Rep. 2024 Dec 31;57:101675. (オンライン)	Case Report
196	Kamijo K, Miyamoto T, Oshima S, et al	産科婦人科	Extensive Pathologic Invasion and Prognostic Implication of Gastric-Type Cervical Adenocarcinoma: A Comparative Analysis With Human Papillomavirus-Associated Adenocarcinoma.	Am J Surg Pathol. 2025 May 1;49(5):471–480.	Original Article
197	Sakamoto A, Tanaka S, Ishida T, et al	麻酔科蘇生科	Differences in sensory nerve block between levobupivacaine and bupivacaine at low concentrations in humans and animals.	PLoS One. 2025 Feb 10;20(2):e0306591. (オンライン)	Original Article
198	Murakami T, Tanaka S, Tanaka R, et al	麻酔科蘇生科	Second-degree atrioventricular block induced by electrical stimulation of transcranial motor-evoked potential: a case report.	JA Clin Rep. 2024 Jun 12;10(1):38. (オンライン)	Original Article
199	Tachibana H, Ohashi N, Okumura G, et al	麻酔科蘇生科	Postoperative hyperammonemic encephalopathy due to unexpected constipation in a patient with hyperornithinemia–hyperammonemia–homocitrullinuria syndrome: a case report.	JA Clin Rep. 2024 Jun 21;10(1):42. (オンライン)	Original Article
200	Matsuo K, Kaneko A	形成外科	Stretching of Mechanoreceptors in Superior Tarsal Muscle Reflexively Contracts Slow-Twitch Fibers in Facial Expression Muscles: A Case Series.	Cureus. 2024 Jul 12;16(7):e64438. (オンライン)	Case Report
201	Nishioka H, Takashimizu I, Yuzuriha S	形成外科	Upper eyelid lymphatic anatomy is associated with blepharoplasty recovery.	J Plast Reconstr Aesthet Surg. 2024 Dec;99:248–255.	Original Article
202	Matsuo K, Kaneko A	形成外科	Stretching of Putative Mechanoreceptors in the Inferior Tarsal Muscle Regulates Tonic and Clonic Reflex Contractions of Slow-Twitch Fibers in the Palpebral Orbicularis Oculi Muscle Causing Apraxia of Eyelid Opening: A Case Series.	Cureus. 2024 Jun 15;16(6):e62450. (オンライン)	Case Report
203	Tsunekawa K, Takashimizu I, Yuzuriha S	形成外科	Prompt, Objective, and Accurate Measurement of Rat Abdominal Flap Blood Flow Using Laser Speckle Flowgraphy.	Plast Reconstr Surg Glob Open. 2024 Aug 9;12(8):e6062. (オンライン)	Original Article
204	Matsuo K, Kaneko A, Otsuka T	形成外科	Increased Stretching of Mechanoreceptors in Superior Tarsal Muscle Reflexively Contracts Upper Trapezius Muscle as well as Levator Palpebrae Superioris and Occipitofrontalis Muscles as Eye-Eyelid-Eyebrow-Head Coordinated Movements: A Case Series.	Cureus. 2025 Mar 17;17(3):e80743. (オンライン)	Case Report

205	Tsunekawa K, Yanagisawa D, Yuzuriha S	形成外科	Laser Speckle Flowgraphy Can Support Intraoperative Assessment of Deep Inferior Epigastric Perforator Flap Blood Flow With Indocyanine Green.	Plast Reconstr Surg Glob Open. 2025 Mar 20;13(3):e6627. (オンライン)	Original Article
206	Nakajima Y, Kondoh S, Yuzuriha S, et al	形成外科	Differential linea alba width in pediatric umbilical hernias: a comparative analysis.	Surg Radiol Anat. 2024 Dec 17;47(1):35. (オンライン)	Original Article
207	Imamura H, Hamano Y, Kamiyo H, et al	救急科	Successful recovery from cardiac arrest due to atlantoaxial subluxation in Down syndrome: a case report.	Spinal Cord Ser Cases. 2024 May 25;10(1):37. (オンライン)	Case Report
208	Maeda Y, Nitta K, Kamiyo H, et al	救急科	Multiple Retained Needles in the Chest and Abdomen Due to Self-Injury: A Case Report.	Cureus. 2024 Dec 29;16(12):e76590. (オンライン)	Case Report
209	Eguchi S, Yokotsuka-Ishida S, Arai Y, et al	子どものこころ診療部	Exacerbation of restless legs syndrome following amygdalohippocampectomy: A case report.	PCN Rep. 2024 Jun 19;3(2):e213. (オンライン)	Case Report
210	Nakamura T, Kuraishi Y, Ohya D, et al	子どものこころ診療部	Major depressive disorder after heart transplantation with partial response to antidepressant therapy and remission with aripiprazole augmentation: A case report.	Neuropsychopharmacol Rep. 2024 Sep;44(3):569-571.	Case Report
211	Nakamura T, Furihata R, Hasegawa N, et al	子どものこころ診療部	The effect of education regarding treatment guidelines for schizophrenia and major depressive disorders on psychiatrists' hypnotic medication prescribing behavior: a multicenter study.	BMC Psychiatry. 2024 May 29;24(1):399. (オンライン)	Original Article
212	Anzai K, Sakai H, Kondo E, et al	特殊歯科・口腔外科	The effectiveness of a self-reported questionnaire on masticatory function in health examinations.	Odontology. 2024 Oct;112(4):1361-1369.	Original Article
213	Sakai H, Kurita H, Kondo E, et al	特殊歯科・口腔外科	Dental and oral management in the perioperative period of surgery: A scoping review.	Jpn Dent Sci Rev. 2024 Dec;60:148-153.	Original Article
214	Seharada K, Kitazawa M, Nakamura S, et al	手術部	A Perivascular Epithelioid Cell Tumor in the Ascending Colon: A Rare Case Involving a Patient With Tuberos Sclerosis.	Cureus. 2025 Feb 15;17(2):e79061. (オンライン)	Case Report
215	Kitazawa M, Karasawa S, Nakamura S, et al	手術部	Laparoscopic Excision of a Tailgut Cyst With Refractory Pain: A Case Report.	Cureus. 2025 Jan 18;17(1):e77644. (オンライン)	Case Report
216	Futatsugi A, Tozuka M, Horiuchi Y, et al	遺伝子医療研究センター	High-density lipoprotein functionality in cholesterol efflux in early childhood is related to the content ratio of triglyceride to cholesterol.	Sci Rep. 2024 Oct 7;14(1):23323. (オンライン)	Original Article
217	Kajihara R, Yamada S, Hashidume M, et al	特殊歯科・口腔外科	A case of congenital infiltrating lipomatosis of the face with the early eruption of permanent teeth with a review of the English literature	J ORAL MAX SURG MED.2024 SEP;36(5):5	Review
218	Kajihara R, Koike T, Shimizu Y, et al	特殊歯科・口腔外科	Clinical characterization of pemphigoid with oral lesions: A case series	J ORAL MAX SURG MED.2024 MAY;36(3):6	Original Article
219	Kurita H, Umeda M, Ueno T, et al	特殊歯科・口腔外科	Management of odontogenic foci of infection (dental caries, periodontal disease and odontogenic infections) in the oral functional management of patients receiving cancer treatments: Guidelines based on a systematic review A secondary publication (translation) of a primary publication	ORAL SCI INT.2024 MAY;21(2):20	Review
220	Yamada SI, Hasegawa T, Yamakawa N, et al	特殊歯科・口腔外科	The clinical impact of the G8 screening tool score on treatment strategy decisions and outcomes among oral squamous cell carcinoma patients aged 75 years or older in Japan	J ORAL MAX SURG MED.2024 SEP;36(5):6	Original Article

221	Yumoto E, Kajihara R, Sakai Y, et al	特殊歯科・口腔外科	Mucoepidermoid carcinoma arising in salivary hyperplasia of the hard palate in a pediatric patient	J ORAL MAX SURG MED.2025 MAR:37(2):5	Original Article
222	Sasayama D, Owa T, Kudo T, et al	精神科	Maternal postpartum depression symptoms and early childhood hyperactive/aggressive behavior are independently associated with later attention deficit/hyperactivity symptoms	INT J BEHAV DEV.2024 MAY:48(3):8	Original Article
223	Nakamura T, Hanaoka Y, Koyama J, et al	脳神経外科	Surgical exploration after overlapping stents for a ruptured blood blister-like aneurysm: Direct observation of the stent struts through the vessel wall defect and its clinical implications	INTERDISCIP NEUROSUR.2024 JUN:36:6	Original Article
224	Seshimoto M, Eguchi T, Matsuoka S, et al	呼吸器外科	Thoracoscopic left lung S9bii subsegmentectomy for an embedded foreign body in the bronchus: a case report	VIDEO-ASSIST THORAC.2024 DEC:9:10	Original Article
225	Kuge R, Kojima K, Shiraishi K, et al	子どものこころ診療部	Adaptation of multi-family therapy for children and adolescents with anorexia nervosa in Japan	J FAM THER.2024 AUG:46(4):14	Original Article
226	Saito T, Ogawa T, Tyagi P, et al	泌尿器科	Experimental Animal Models for IC/BPS	CURR BLADDER DYSFUNC.2024 JUN:19(2):8	Review
227	Asaka S, Verma N, Yen TT, et al	検査部	Association of glutaminase expression with immune-suppressive tumor microenvironment, clinicopathologic features, and clinical outcomes in endometrial cancer	INT J GYNECOL CANCER.2024 NOV:34(11):8	Original Article

計227件

(注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)

3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。

4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。

5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること  
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。  
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)

6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
1					Original Article
2					Case report
3					
~					

計 件

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有
・ 手順書の主な内容 ①「臨床研究に関する標準業務手順書」： 「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」に基づいて、国立大学法人信州大学医学部・附属病院における研究者が主導して行う人を対象とする医学系研究の実施に必要な手続きと運営に関する手順を定めている。 ②「倫理審査申請の手順」： 倫理審査申請から承認、研究の実施までの流れを定めている。 ③「他の研究機関からの審査依頼に関する標準業務手順書」： 他の研究機関の長から人を対象とする医学系研究の審議を依頼された場合の手順を定めている。	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年 1 2 回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。  
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有
・ 規定の主な内容 国立大学法人信州大学臨床研究に係る利益相反マネジメント規程による。	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年数回 (適宜)

(注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年数回 (適宜)
・ 研修の主な内容 eAPRINのe-learning受講による教育研修	

(注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

専攻医研修（基本領域） 内科専門研修プログラム，精神科専門研修プログラム，小児科専門研修プログラム，皮膚科専門研修プログラム，放射線科専門研修プログラム，外科専門研修プログラム，整形外科専門研修プログラム，脳神経外科専門研修プログラム，泌尿器科専門研修プログラム，眼科専門研修プログラム，耳鼻咽喉科頭頸部外科専門研修プログラム，産婦人科専門研修プログラム，麻酔科専門研修プログラム，形成外科専門研修プログラム，救急科専門研修プログラム，リハビリテーション科専門研修プログラム，臨床検査専門研修プログラム，病理専門研修プログラム
--

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	133 人
-------------	-------

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
花岡 正幸	呼吸器・感染症・アレルギー-内科	診療科長	36 年	
岩谷 勇吾	消化器内科	診療科長	20 年	
上條 祐司	腎臓内科	専門診療科長	31 年	
牧島 秀樹	血液内科	専門診療科長	28 年	
関島 良樹	脳神経内科	診療科長	34 年	
下島 恭弘	リウマチ・膠原病内科	専門診療科長	26 年	
駒津 光久	糖尿病・内分泌代謝内科	診療科長	39 年	
桑原 宏一郎	循環器内科	診療科長	34 年	
鷺塚 伸介	精神科	診療科長	31 年	
中沢 洋三	小児科	診療科長	29 年	
奥山 隆平	皮膚科	診療科長	36 年	
藤永 康成	放射線科	診療科長	32 年	
副島 雄二	消化器外科 移植外科 小児外科	診療科長	34 年	
瀬戸 達一郎	心臓血管外科	診療科長	30 年	
伊藤 研一	乳腺・内分泌外科	診療科長	37 年	
清水 公裕	呼吸器外科	診療科長	32 年	
高橋 淳	整形外科	診療科長	33 年	
堀内 哲吉	脳神経外科	診療科長	34 年	
栗田 浩	特殊歯科・口腔外科	診療科長	38 年	
秋山 佳之	泌尿器科	診療科長	18 年	
村田 敏規	眼科	診療科長	39 年	

工 穰	耳鼻咽喉科頭頸部外科	診療科長	31年	
塩沢 丹里	産科婦人科	診療科長	39年	
田中 聡	麻酔科蘇生科	診療科長	31年	
杠 俊介	形成外科	診療科長	36年	
今村 浩	救急科	診療科長	38年	
堀内 博志	リハビリテーション科	職付・特定雇用診療科長	33年	
上原 剛	病理診断科	職付・診療教授	28年	
上原 剛	臨床検査部	施設部長・職付・診療教授	28年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）

- 新人看護師、看護ラダーに基づく研修、役割遂行に関する研修、教育能力開発に関する研修
  - ・ 研修の期間・実施回数 令和6年4月～令和7年3月、78回
  - ・ 研修の参加人数 延べ2823名
- 放射線障害予防研修
  - ・ 研修の主な内容 種類、線量測定、人体への影響、職業被ばくの線量限度等の研修
  - ・ 研修の期間 令和7年4月21日(月)-5月16日(金)（業務端末視聴）
  - ・ 研修回数 年1回実施 ・ 研修の参加人数 670人
- 医療放射線安全利用の研修
  - ・ 研修の主な内容 医療被ばくの基本、放射線の正当化、防護の最適化等の研修
  - ・ 研修の期間 令和7年6月9日(月)-7月11日(金)（業務端末視聴）
  - ・ 研修の期間・実施回数 年1回実施 ・ 研修の参加人数 996人
- MRI安全講習
  - ・ 研修の主な内容 磁場と電波の影響、吸着事故や火傷の防止、造影剤の副作用等の研修
  - ・ 研修の期間 令和7年6月9日(月)-7月11日(金)（業務端末視聴）
  - ・ 実施回数 年1回実施 ・ 研修の参加人数 1069人
- 人工心肺装置及び補助循環装置、人工呼吸器、血液浄化装置、除細動器、閉鎖式保育器の安全使用のための研修
  - ・ 研修の期間・実施回数：人工心肺及び補助循環装置：12回、人工呼吸器：2回、血液浄化装置：3回、除細動器：2回、閉鎖式保育器：2回
  - ・ 研修の参加人数：人工心肺及び補助循環装置：170人、人工呼吸器：23人、血液浄化装置：50人、除細動器：24人、閉鎖式保育器：32人

② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）

- ・ 研修の主な内容
- ① 師長；心理的安全性を育むコミュニケーション
- ② 副師長；組織分析からの問題解決
- ③ 新任管理者研修
  - ・ 研修の期間・実施回数
  - ① 令和6年9月、1回
  - ② 令和6年4月～9月、全5回
  - ③ 令和6年3月～10月、全5回
  - ・ 研修の参加人数
  - ① 27人
  - ② 延べ20人
  - ③ 延べ25人

③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況

- ・ 研修の主な内容
- 新人看護師フィジカルアセスメント

- |   |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"><li>・研修の期間・実施回数<br/>令和6年8月・1回</li><li>・研修の参加人数<br/>5名</li></ul> |
|---|

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

## (様式第 5)

## 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	2. 現状
管理責任者氏名	病院長 花岡 正幸
管理担当者氏名	副病院長 (事務担当) 酒井 修 総務課長 古澤 真紀 経営管理課長 紙谷 康弘 経営推進課長 宮尾 勇人 医事課長 寺沢 隆 医療支援課長 渡邊 拓矢

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録	規則第二十一条の三第二項に掲げる事項	病院日誌	総務課
		各科診療日誌	診療録管理室
		処方せん	
		手術記録	
		看護記録	
		検査所見記録	
		エックス線写真	
		紹介状 退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十一条の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	総務課
		高度の医療の提供の実績	医事課
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	経営管理課
		高度の医療の研修の実績	医学部
		閲覧実績	総務課
		紹介患者に対する医療提供の実績	医事課
	掲げる事項 規則第一条の十一第一項に	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課 薬剤部
		医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医事課
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医事課
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理室
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理室

電子化されている諸記録は、電子カルテシステムおよび部門システム内で管理している。  
紙媒体の諸記録は、診療録管理室が管理する記録保管庫で管理している。  
また診療録の本院外への持ち出しについては、「信州大学医学部附属病院診療録閲覧・貸出要項」により禁止している。

(高度の医療技術の開発及び評価の実績)  
電子化されている諸記録は、事務部サーバー内で管理している。  
紙媒体の諸記録は、事務部の保管庫で管理している。

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一	院内感染対策のための指針の策定状況	感染制御室
	第二項	院内感染対策のための委員会の開催状況	感染制御室
	第一号	従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染制御室
	第三号	感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御室
	第三号	医薬品安全管理責任者の配置状況	薬剤部
	第三号	従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
	第三号	医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
	第三号	医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
	第三号	医療機器安全管理責任者の配置状況	総務課
	第三号	従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	経営管理課
第三号	医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	経営管理課	
第三号	医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	経営管理課	

電子化されている記録は感染制御室及び医事課医療安全系のシステム内で管理している。かつ紙媒体でも学内ルールにより5年間保存している。

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第二項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	総務課
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	総務課
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医療安全管理室
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	医療支援課
		医療安全管理部門の設置状況	医事課
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	総務課
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	総務課
		監査委員会の設置状況	医事課
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全管理室
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医事課
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医事課
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	大学法人本部
		職員研修の実施状況	総務課
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	総務課
		管理者が有する権限に関する状況	総務課
管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	総務課		
開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	総務課		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第6)

## 病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

### ○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画      ② 現状
閲覧責任者氏名	病院長 花岡 正幸
閲覧担当者氏名	副病院長(事務担当) 酒井 修 総務課長 古澤 真紀 経営管理課長 紙谷 康弘 経営推進課長 宮尾 勇人 医事課長 寺沢 隆 医療支援課長 渡邊 拓矢
閲覧の求めに応じる場所	・総務課
閲覧の手続の概要 閲覧希望者より申請があった際には、総務課にて記録を閲覧させている。	

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

### ○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0	件
閲覧者別	医師	延	0 件
	歯科医師	延	0 件
	国	延	0 件
	地方公共団体	延	0 件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有																						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 指針の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> <li>医療安全管理に関する基本的な考え方</li> <li>医療安全管理のための組織に関する基本的方針</li> <li>医療安全管理のための職員に対する研修に関する基本方針</li> <li>医療安全管理の確保を目的とした改善のための方策に関する基本事項</li> <li>医療事故等発生時の対応に関する基本方針</li> <li>医療従事者と患者との間の情報の共有に関する基本事項（患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針を含む）</li> <li>患者からの相談への対応に関する基本方針</li> <li>その他医療安全の推進のために必要な基本方針</li> </ul> </li> </ul>																							
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況																							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 設置の有無（有）</li> <li>・ 開催状況：年12回</li> <li>・ 活動の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> <li>医療安全管理委員会の内規に基づき、本院で発生した医療事故の原因究明のための調査・分析。分液結果を活用した改善方策の立案・実施・周知おける事項の審議を行う。方策の実施状況についての調査、見直しとして、委員会構成員による関係部署の巡回等を行う。その他、重要な検討内容、患者への対応状況を含めて管理者への報告を行う。</li> </ul> </li> </ul>																							
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年107回																						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修の内容（すべて）： <table border="0" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding-left: 20px;">部署医療安全管理者研修</td> <td style="text-align: right; vertical-align: bottom;">3回</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">医療安全 春</td> <td style="text-align: right; vertical-align: bottom;">1回</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">医療安全 秋</td> <td style="text-align: right; vertical-align: bottom;">1回</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">一時救命処置（BLS）研修</td> <td style="text-align: right; vertical-align: bottom;">8回</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">シミュレーション研修 部署での実践</td> <td style="text-align: right; vertical-align: bottom;">6回</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">医療安全推進記念講演 「高信頼性組織におけるコミュニケーションの鍵 チーム医療の多様な概念が織りなす立体構造」</td> <td style="text-align: right; vertical-align: bottom;">1回</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">事例検討会（M&amp;Mカンファレンス、RCA分析等）</td> <td style="text-align: right; vertical-align: bottom;">5回</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">超音波ガイド下中心静脈穿刺研修</td> <td style="text-align: right; vertical-align: bottom;">1回</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">patient journey mapping</td> <td style="text-align: right; vertical-align: bottom;">1回</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">新入職者対象 医療安全研修</td> <td style="text-align: right; vertical-align: bottom;">1回</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">SafetyPlus</td> <td style="text-align: right; vertical-align: bottom;">通年</td> </tr> </table> </li> </ul>		部署医療安全管理者研修	3回	医療安全 春	1回	医療安全 秋	1回	一時救命処置（BLS）研修	8回	シミュレーション研修 部署での実践	6回	医療安全推進記念講演 「高信頼性組織におけるコミュニケーションの鍵 チーム医療の多様な概念が織りなす立体構造」	1回	事例検討会（M&Mカンファレンス、RCA分析等）	5回	超音波ガイド下中心静脈穿刺研修	1回	patient journey mapping	1回	新入職者対象 医療安全研修	1回	SafetyPlus	通年
部署医療安全管理者研修	3回																						
医療安全 春	1回																						
医療安全 秋	1回																						
一時救命処置（BLS）研修	8回																						
シミュレーション研修 部署での実践	6回																						
医療安全推進記念講演 「高信頼性組織におけるコミュニケーションの鍵 チーム医療の多様な概念が織りなす立体構造」	1回																						
事例検討会（M&Mカンファレンス、RCA分析等）	5回																						
超音波ガイド下中心静脈穿刺研修	1回																						
patient journey mapping	1回																						
新入職者対象 医療安全研修	1回																						
SafetyPlus	通年																						
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況																							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療機関内における事故報告等の整備（有） <ul style="list-style-type: none"> <li>既定の名称「医療安全管理マニュアル」</li> </ul> </li> <li>・ その他の改善のための方策の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> <li>インシデントの発見者または当事者が入力した業務端末内のインシデント報告システムにより、医療安全管理室でインシデントの発生を把握</li> </ul> </li> </ul>																							

する。部署医療安全管理者にも報告内容が自動的にメールにて通知される。

影響レベル3b以上の事例については医療安全管理者のPHSあるいは公用携帯電話に直接連絡が入る。また、発見通知入力により医療安全管理室会議構成員に自動的にメールが送信される。インシデントレポート提出と報告については、1日1回まとめて医療安全管理室から医療安全管理室会議構成員にメール配信を行い、全員が確認している。

毎週木曜日に医療安全管理室ミーティングを開催し、前週1週間分のインシデントレポート内容について検討している。

事例の問題分析については、各部署で事例ごとに再発防止策を検討する。複数の職種や部署が関与する事例、繰り返し発生する事例については、医療安全管理室の指導の下、各部署とともに事例分析を行う。

事例の改善策については、医療安全管理室ミーティングで毎週1回検討を行っている。

また、医薬品安全管理室及び医療安全管理室の連絡会議を月に1回開催している。前述の会議、その他の会議により、各部署及び医療安全管理室などで立案し、医療安全管理委員会で審議し改善策を決定している。

毎月の医療安全管理委員会にて審議、検討された事項について翌月の部署医療安全管理者会議にて周知、指導及び教育を行っている。

各部署では部署医療安全管理者が中心となり、毎年改善プランを立案し、重点課題への取り組み、その評価を年度ごとに医療安全管理室が取りまとめ、指導、教育を行っている。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 指針の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> <li>● 医療関連感染対策に関する基本的な考え方</li> <li>● 感染対策委員会の設置</li> <li>● 医療関連感染対策に関する職員研修</li> <li>● 医療関連感染発生時の対応</li> <li>● 医療関連感染対策ガイドライン</li> </ul> </li> </ul>	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年12回
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 活動の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> <li>● 抗菌薬使用動向報告</li> <li>● JANIS検査部門還元情報報告/感染症レポート</li> <li>● 医療関連感染に関する啓発及び職員研修の企画、実施</li> <li>● 医療関連感染ガイドライン等の策定・改訂についての審議（カテーテル関連尿路感染症予防マニュアル、人工呼吸器関連肺炎防止マニュアル、感染性廃棄物の処理、耐性菌対策マニュアル、ウイルス感染症対策マニュアル、流行性角結膜炎マニュアル、抗菌薬使用マニュアル、感染症診察室使用手順マニュアル、就業制限）</li> <li>● アウトブレイク事象についての対応、報告</li> <li>● 職業感染対策（血液・体液曝露、結核接触者健診、ワクチン接種プログラム 等）についての実施及び報告</li> <li>● 医療関連感染サーベイランス（デバイス関連、耐性菌、プロセス 等）についての実施及び報告</li> <li>● 院内ラウンドの実施及び報告、改善活動報告、コンサルテーション対応</li> <li>● 感染防止対策地域連携加算に基づく相互チェックの実施及び報告</li> <li>● その他感染管理に関する事項の検討、審議、決定（病院フォーミュラリー（カンジダ菌血症）、ICD許可薬追加、消毒薬開封後期限設定、職員コロナ・インフルエンザ検査キット変更、マスク着用ルールの変更、SSIサーベイランス実施のための電子カルテシステム変更に関する要望、等）</li> </ul> </li> </ul>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年101回
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修の内容（すべて）： <ul style="list-style-type: none"> <li>【全職員対象】 <ul style="list-style-type: none"> <li>● 抗菌薬適正使用講演会 「血培のチカラ」：1回</li> <li>● 感染対策必修研修会①「結核・抗菌薬適正使用について」：8回+Web</li> <li>● 感染対策必修研修会②「感染対策基礎知識 患者環境の清潔管理」：12回+Web</li> </ul> </li> <li>【新採用者・中途対象者対象】 <ul style="list-style-type: none"> <li>● 新採用者対象 院内感染対策オリエンテーション：1回</li> <li>● 中途採用者対象 院内感染対策オリエンテーション：19回</li> <li>● 新採用看護師対象 手指衛生技術研修：3回</li> <li>● 新採用研修医対象 PPE着脱・N95マスクフィットテスト：2回</li> </ul> </li> <li>【その他】 <ul style="list-style-type: none"> <li>● 研修医対象 研修医クルズス：2回</li> <li>● 感染リンクナース対象 感染管理実践コース ベーシック・アドバンス：6回</li> <li>● 放射線部放射線技師対象 手指衛生：1回</li> <li>● 委託業者対象 個人防護具の適正使用：2回</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul>	

④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況

- ・ 病院における発生状況の報告等の整備 ( 有 )
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：
  - アウトブレイク・クラスター対応（部署への介入）：
    - ① COVID-19クラスター対応（3事例）
    - ② ノロウイルスアウトブレイク対応（1事例）
    - ③ インフルエンザアウトブレイク対応（1事例）
  - 結核の接触者健診（4事例）
  - 病棟改修工事に関する感染対策の助言・提言

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年2回
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修の主な内容：               <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 医薬品安全使用のための研修会（Web） 令和7年1月14日-令和7年3月31日，参加者 765名</li> <li>2) 麻薬・向精神薬・覚醒剤原料の管理・取扱いについて（Web） 令和7年1月14日-令和7年3月31日，参加者 758名</li> </ol> </li> </ul>	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 手順書の作成（有）</li> <li>・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容：               <ol style="list-style-type: none"> <li>I. 医薬品の採用：薬事委員会の開催に基づく医薬品の採用</li> <li>II. 医薬品管理：手順に基づいた医薬品の購入および適正管理の実施、各部署での医薬品管理等</li> <li>III. 患者に対する医薬品使用：調剤、交付、過誤防止</li> <li>IV. 薬剤管理指導・病棟薬剤業務・周術期薬剤管理業務：適切な薬剤管理指導業務および病棟薬剤業務の実施、持参薬管理、周術期薬剤管理業務に関するプロトコル等</li> <li>V. 医薬品情報の収集・提供等：医薬品情報の収集、解析、評価、副作用報告、医薬品情報管理室と病棟薬剤師との連携、医薬品情報管理室と医療安全管理室との連携</li> <li>VI. 院内製剤：クラス分類等</li> <li>VII. 保険薬局との連携：疑義照会への対応等</li> </ol> </li> </ul> <p>上記内容の手順書に対し、薬剤部での業務においては、適切に行われているかを常時確認している。また、薬剤部以外の部署での業務においては、定期的に「医薬品安全使用のための業務点検」を行い、適切に行われていることを確認している。</p>	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医薬品に係る情報の収集の整備（有）</li> <li>・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例（あれば）：               <ul style="list-style-type: none"> <li>「人工血管置換術におけるRifadin注射液の使用」</li> <li>「薬剤徐放型電極を用いた人工内耳植え込み術」</li> </ul> </li> <li>・ その他の改善のための方策の主な内容：               <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 「医薬品安全管理のための業務手順書」の、年に1回の改訂と院内への周知徹底 「医薬品安全管理のための業務手順書」は、医療安全管理委員会にて審議され、承認された後、院内各所に配布し、周知している。</li> <li>2) 医薬品の安全使用のための情報提供方法の工夫 薬剤部NEWS（隔月発行）、院内オールメール、電子カルテ初期画面への掲示、院内向け薬剤部ホームページへの掲示等により全職員へ通知している。添付文書内容は、添付文書データベースを月に1回更新し、最新の情報を診療端末にて閲覧可能としている。</li> <li>3) 院内での医薬品副作用報告体制の整備 電子カルテシステムからの副作用報告を可能としている。提出された副作用報告は、薬事委員会および医療安全管理委員会で報告を行っている。</li> </ol> </li> </ul>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年61回
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修の主な内容：            新入職員医療機器研修 中途採用者・復帰者に対する医療機器研修            特定機能病院に係る医療機器（人工呼吸器、人工心肺及び補助装置、血液浄化装置、除細動器、閉鎖式保育器、放射線治療装置、CTエックス線装置、MRI装置）の研修            その他必要な機器の研修</li> </ul>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療機器に係る計画の策定 （有）</li> <li>・ 機器ごとの保守点検の主な内容：            年1回を基本とした定期点検（消耗品、定期部品交換、動作確認、漏れ電流測定等）</li> </ul>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集 その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療機器に係る情報の収集の整備 （有）</li> <li>・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例（あれば）：特段なし</li> <li>・ その他の改善のための方策の主な内容：            定期的な医療安全管理室とのミーティング            部署リスクマネージャー会議での連絡・報告            臨床工学部広報誌等の発行            納入業者へ納入医療機器の情報提供の依頼</li> </ul>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号の二に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 責任者の資格（医師・歯科医師）</li> <li>・ 医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</li> </ul> <p>医療安全管理責任者は副病院長（危機管理担当）が担っており、同時に医療安全管理部門の責任者及び医療安全管理委員長となり、医療の安全に関することを統括管理している。また、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者は、医療安全管理委員会の構成員となり医療安全に関する報告を行っている。</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有（ 3名）
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</li> </ul> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 月に1回の頻度で行っている、医薬品情報管理室と医療安全管理室との連絡会議において、院内で発生した医薬品に関するインシデントや、院内外より入手した医薬品の安全性情報・適正使用情報について情報共有を行い、院内での対応策について協議し、適切な措置を講じている。検討した内容は、医療安全管理委員会で審議したのち、部署医療安全管理者会議で報告、周知している。</li> <li>2) 薬事委員会、および医療安全委員会において、医薬品医療機器等安全性情報の周知や、副作用症例の報告を行っている。</li> <li>3) 特に重要な添付文書改訂等については、隔月にて発行している「薬剤部 NEWS」において、院内職員に対し周知している。</li> <li>4) 特に注意を要する事項について、年に1回の頻度で行っている「医薬品の安全使用のための研修会」において説明している。本研修では、理解度確認テストを行うことにより、受講者の理解を深めるようにしている。</li> </ol> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況</li> </ul> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 審査済みの未承認新規医薬品の使用時は、処方・注射オーダーリングからの入力とし、患者限定・医薬品採用願書または薬剤保管依頼書、倫理委員会審査結果通知書を医薬品情報管理室に提出する。また、医療安全管理室の専従薬剤師が、患者の使用状況について定期的に確認している。</li> <li>2) 登録状況、使用状況については、薬剤部室長会議（月1回開催）で報告を受けており、医薬品安全管理責任者に確実に伝達される。</li> </ol> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 担当者の指名の有無（有）</li> <li>・ 担当者の所属・職種： <ul style="list-style-type: none"> <li>（所属：薬剤部・医薬品情報管理室， 職種 薬剤師 ）</li> <li>（所属：医療安全管理室， 職種 薬剤師 ）</li> </ul> </li> </ul>	
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	有
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 （ 有 ）</li> <li>・ 説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容：診療録管理委員会での遵守状況の確認、指導及び医療安全管理委員会との情報共有</li> </ul>	

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	有
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容：</li> <li>・ 主に手術記録、退院時要約、インフォームド・コンセントに関する記録、カウンターサイン実施状況、略語の使用状況等を日常的に確認し、記載に不備が認められた場合に担当医へ指導を実施。記載が不十分な事例については、診療録管理委員会を通じて、各部署に周知を依頼</li> <li>・ 新入職員入職時のオリエンテーションにおいて、診療録と診療報酬の関係に関する講義を担当</li> <li>・ 卒後臨床研修医入職時のオリエンテーションにおいて、退院時要約の作成に関する講義を担当</li> <li>・ 多職種による診療記録および退院時要約の質的監査を、それぞれ年2回実施。監査結果を診療録管理委員会へ報告するとともに主治医へのフィードバックを実施</li> </ul>	
⑥ 医療安全管理部門の設置状況	有
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 所属職員：専従（5）名、専任（0）名、兼任（9）名</li> <li>  うち医師：専従（1）名、専任（0）名、兼任（6）名</li> <li>  うち薬剤師：専従（1）名、専任（0）名、兼任（0）名</li> <li>  うち看護師：専従（2）名、専任（0）名、兼任（1）名</li> <li>（注）報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること</li> <li>・ 活動の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> <li>・ インシデントレポート及び関係者からの事実確認に基づく医療事故等の判定</li> <li>・ 医療事故発生時における記録等の確認及び指導並びに患者家族への対応状況の確認及び指導</li> <li>・ 医療安全相談室からの医療事故の相談内容に関する事項</li> <li>・ 医療の安全管理を推進するための啓発活動に関する事</li> <li>・ 医療安全管理委員会で用いられる資料及び議事録の作成及び改善策の提案に関する事</li> <li>・ 肺血栓塞栓症予防策の実施状況及び全死亡例のモニタリングに関する事</li> <li>・ インフォームド・コンセントの適切な実施に関する事</li> <li>・ その他医療の安全管理に係る連絡調整及び医療安全対策の推進に関する事</li> </ul> </li> </ul> <p>※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。</p> <p>※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。</p>	
⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（52件）、及び許可件数（52件）</li> <li>・ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（有）</li> <li>・ 高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有）</li> <li>・ 活動の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> <li>高難度新規医療技術を用いた医療の提供に関する審査申請があった場合は、担当部門においてその提供の適否を審査する。当該医療技術実施後は、2週間後、および1年後に、申請診療科より使用報告書が提出されるため、その内容を確認する。</li> <li>・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有）</li> <li>・ 高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（有）</li> </ul> </li> </ul>	
⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（3件）、及び許可件数（3件）</li> <li>・ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（有）</li> <li>・ 未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有）</li> </ul>	

- ・活動の主な内容：  
診療科より未承認新規医薬品等の申請があった場合、未承認新規医薬品等担当部門において、使用の可否について協議を行う。その際、使用する未承認新規医薬品等について、既存の医薬品と比較した際の優位性、有害事象、患者への説明と同意の方法、使用できる医師の条件等について、未承認新規医薬品等評価委員会にも意見聴取しながら、使用の可否を決定する。使用より2週間後、および1年後に、申請診療科より使用報告書が提出されるため、その内容を確認する。
- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有）
- ・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（有）

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年329件
- ・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の実事及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年180件
- ・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容
- ・医療安全管理部門に報告された事象の確認
- ・適切に報告されているかの確認及び報告が不十分な場合の指導

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・他の特定機能病院等への立入り（有（病院名：滋賀医科大学））
- ・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（有（病院名：奈良県立大学））
- ・技術的助言の実施状況  
滋賀医科大学に対して2025年11月11日（火）に実施予定。

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

- ・体制の確保状況  
窓口「医療安全相談室」を設置し、医療安全相談室（個室）で相談。対応者は客観的・中立的な立場を遵守し、相談後の対応は患者等の意向を尊重しながら対応を行っている。対面の他、電話相談・投書箱でも対応を行っている。

⑫ 職員研修の実施状況

- ・研修の実施状況  
監査委員会からの意見の表明に関する事項については、研修該当事項がない為、実施なし。  
医療法施行規則改正に係る事項については、医療安全管理室主催の研修として実施。

（注）前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること）

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

院内での研修実施予定は無し。

花岡 正幸（病院長）は、令和6年度特定機能病院管理者研修（継続受講）を令和6年11月26日に受講済である。

関島 良樹（医療安全管理責任者）は、令和6年度特定機能病院管理者養成研修（継続受講）を令和7年2月14日に受講済である。

今村 浩（医療機器安全管理責任者）は、令和6年度特定機能病院管理者養成研修（継続受講）を令和6年12月9日に受講済である。

土屋 広行（医薬品安全管理責任者）は、令和6年度特定機能病院管理者研修（継続受講）を令和7年1月17日に受講済である。

（注）前年度の実績を記載すること

⑭ 医療機関内における事故の発生の防止に係る第三者による評価の受審状況、当該評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況、当該評価を踏まえ講じた措置の状況

・第三者による評価の受審状況

令和6年6月12日～14日公益財団法人日本医療機能評価機構病院機能評価一般病院3受審

今後、補充的な審査を受審予定

・評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況

・評価を踏まえ講じた措置

（注）記載時点の状況を記載すること

規則第7条の2の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

<p>管理者に必要な資質及び能力に関する基準</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基準の主な内容 <p>人格が高潔で、学識に優れ、かつ、本院における医療の質と安全性を確保し、高度医療の提供及び教育研究活動を適切かつ効果的に運営することができる能力を有する者で、以下の要件を満たす者。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 医師免許を有している者</li> <li>(2) 医療安全確保のために必要な資質・能力を有している者</li> <li>(3) 病院の管理運営に必要な資質・能力を有している者</li> <li>(4) 教育・研究・診療に必要な資質・能力を有している者</li> </ol> </li> <li>・ 基準に係る内部規程の公表の有無（ 有 ）</li> <li>・ 公表の方法 <p>本学公式サイトに掲載</p> </li> </ul>
--

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	無			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無（ 有・無 ）</li> <li>・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無（ 有・無 ）</li> <li>・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無（ 有・無 ）</li> <li>・ 公表の方法</li> </ul>				
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関係
				有・無
				有・無
				有・無
				有・無

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の設置及び運営状況

合議体の設置の有無		有	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 合議体の主要な審議内容 信州大学医学部附属病院の運営に関する重要事項を審議する。</li> <li>・ 審議の概要の従業者への周知状況 各診療科長宛に紙媒体にて通知するとともに、電子掲示板にて周知している。</li> <li>・ 合議体に係る内部規程の公表の有無（ 有 ）</li> <li>・ 公表の方法 WEBによる公表</li> <li>・ 外部有識者からの意見聴取の有無（ 無 ）</li> </ul>			
合議体の委員名簿			
氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
花岡 正幸	○	医師	病院長
杠 俊介		医師	副病院長（経営、設備担当）
関島 良樹		医師	副病院長（危機管理担当）
内田 緑		看護師	副病院長（看護部長）
酒井 修		事務職員	副病院長（事務担当）
桑原 宏一郎		医師	
岩谷 勇吾		医師	
牧島 秀樹		医師	
上條 祐司		医師	
下島 恭弘		医師	
駒津 光久		医師	
鷺塚 伸介		医師	
中沢 洋三		医師	
奥山 隆平		医師	
藤永 康成		医師	
副島 雄二		医師	病院長補佐（診療・評価担当）
瀬戸 達一郎		医師	
清水 公裕		医師	病院長補佐（教育・研究、卒後臨床研修担当）
伊藤 研一		医師	
高橋 淳		医師	病院長補佐（国際化、倫理担当）
堀内 哲吉		医師	
栗田 浩		医師	病院長補佐（施設担当）
秋山 佳之		医師	
村田 敏規		医師	

工 種		医師	病院長補佐（広報、地域医療担当）
塩沢 丹里		医師	
田中 聡		医師	
今村 浩		医師	病院長補佐（管理・運営、災害対策担当）
関口 健二		医師	
堀内 博志		医師	
上原 剛		医師	
古庄 知己		医師	
本田 秀夫		医師	
神田 慎太郎		医師	
内藤 隆文		薬剤師	

## 規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

### 管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（有）
- ・ 公表の方法  
WEBによる公表
- ・ 規程の主な内容
  - ・ 病院長は、病院の管理運営に関する業務を統括する。
  - ・ 副病院長は4人以内とし、そのうち1人は看護部長をもって充て、1人は事務部担当とし、それ以外の副病院長は、病院長が指名する。
  - ・ 病院長補佐は3人以内とし、信州大学医学部附属病院規程の第16条に規定する病院診療科長会の構成員のうちから、病院長が指名する。
- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割
  - ・ 副病院長は、病院長の業務を補佐するとともに、病院長に事故があるときは、病院長があらかじめ指名した副病院長が、その職務を代行する。
  - ・ 病院長補佐は、病院長の求めに応じ、病院の管理運営に関する専門的事項について企画立案するとともに、当面する諸課題その他病院長が必要と認める事項について助言等を行う。
  - ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況  
花岡 正幸（病院長）は、令和6年度特定機能病院管理者研修（継続受講）を令和6年11月26日に受講済である。  
関島 良樹（医療安全管理責任者）は、令和6年度特定機能病院管理者養成研修（継続受講）を令和7年2月14日に受講済である。  
今村 浩（医療機器安全管理責任者）は、令和6年度特定機能病院管理者養成研修（継続受講）を令和6年12月9日に受講済である。  
土屋 広行（医薬品安全管理責任者）は、令和6年度特定機能病院管理者研修（継続受講）を令和7年1月17日に受講済である。

規則第15条の4第1項第2号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する  
状況

監査委員会の設置状況	有・無
<p>・ 監査委員会の開催状況：年2回（令和7年2月14日(金)、令和7年3月6日(木)）</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <p>(1) 医学部附属病院における医療安全管理責任者、医療安全管理室、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者等の業務の状況について、病院長等から報告を求め、又は必要に応じて資料の提出、関係者の委員会への出席等を求め確認を行うこと。</p> <p>(2) 必要に応じ、学長又は病院長に対し、医療に係る安全管理についての是正措置を講ずるよう意見を表明すること。</p> <p>(3) 第1号及び第2号に掲げる業務について、その結果をホームページで公表すること。</p> <p>・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無（有）</p> <p>・ 委員名簿の公表の有無（有）</p> <p>・ 委員の選定理由の公表の有無（有）</p> <p>・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無（有）</p> <p>・ 公表の方法：</p> <p>信州大学医学部附属病院のウェブページ上で公開している。</p>	

監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）

氏名	所属	委員長 (○ を付 す)	選定理由	利害 関係	委員の要件 該当状況
田内 克典	社会医療法人財団慈泉 会相澤病院 病院長	○	医療に係る安全管理に関 する識見を有する者	無	1
宗村 和広	信州大学 経法学部 教授		法律に関する識見を有す る者	無	1
両角 直子			医療に係る安全管理に関 する識見を有する者	無	1
林 幸代	信州 SP 研究会		医療を受ける者	無	2
藤澤 晃	信州大学理事		その他学長が必要と認め たもの	無	3

（注） 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

規則第15条の4第1項第3号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを  
確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

- 体制の整備状況及び活動内容  
内部監査室において、当該年度の病院を含む各組織の業務に関し、監事による監査と連携し、監査を実施している。
- 専門部署の設置の有無（ 有 ）
- 内部規程の整備の有無（ 有 ）
- 内部規程の公表の有無（ 有 ）
- 公表の方法  
WEBによる公表

規則第15条の4第1項第3号ロに掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況</li> </ul> <p>国立大学法人信州大学病院業務監督委員会を設置し、次に掲げる事項について、点検・監督を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 経営状況に関すること。</li> <li>(2) 予算及び決算に関すること。</li> <li>(3) 中期目標・中期計画に関すること。</li> <li>(4) 人事計画に関すること。</li> <li>(5) 学長が必要と認めた事項に関すること。</li> <li>(6) その他病院の管理運営に関する重要事項に関すること。</li> </ol> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 会議体の実施状況（ 年6回 ）</li> <li>・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（ 有 ）（ 年6回 ）</li> <li>・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（ 有 ）</li> <li>・ 公表の方法 WEBによる公表</li> </ul>			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：国立大学法人信州大学病院業務監督委員会			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
永松 裕希	理事（総括（プロボスト）担当）	○	無
安彦 広斉	理事（総務、財務担当）		無
西垣 明子	長野県		無
井上 憲昭	JA 長野厚生連 富士見高原医療福祉センター		無
天野 直二	岡谷市病院事業管理者		有

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第15条の4第1項第4号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無（ 有 ）</li><li>・ 通報件数（年〇件）</li><li>・ 窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無（ 有 ）</li><li>・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無（ 有 ）</li><li>・ 周知の方法：医療安全管理マニュアル、病院オールメール（年2回）、業務端末に掲載</li></ul>

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類 (任意)

1 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	有
<p>・ 情報発信の方法, 内容等の概要</p> <p>病院ホームページ, 病院概要冊子 (年 1 回発行) および病院広報誌 (年 4 回程度発行) 等により, 病院の基本理念をはじめ診療科・診療部門等の取組み等について, 患者や他の医療機関等へ広く情報発信を行っている。</p> <p>また, 2021年5月には書籍「よりよい医療を届けたいー信大病院の最新治療」を発行した。</p>	

2 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	有
<p>・ 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要</p> <p>複数の診療科が連携し医療を提供する, 周産期のこころの外来, 頭痛外来, YS外来, 認知症治療外来等の専門外来を開設している。また, 2024年6月に, てんかん外来を改め, てんかんセンターとして開設し, 機能強化した。</p>	